

54H40

海
外
日
錄

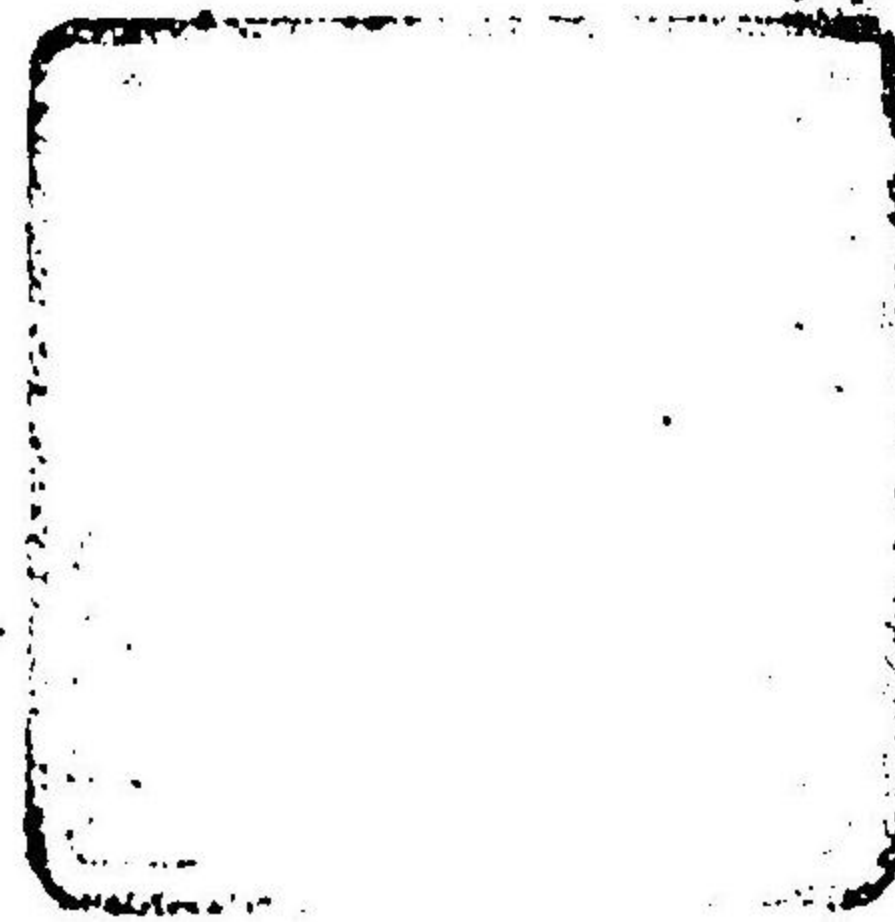
290.9 A893 &

海外日錄緒言

予奉使命駐伊國有年官餘則馳輿馬携筇杖逍遙乎都邑察風俗觀人情或尋古蹟或探名勝傍徵之史乘又質之耆宿參互錯綜有契心以爲樂焉如夏時賜暇則足跡殆跨數千里得歷覽其各都府因併記前後所獲詩數十首以備遺忘然至其謠俗之異樣山川之變態則非所一遊能記也但採其喧傳著明於世者以成此編顧誤聞訛傳亦應不尠且若其地名人名則錯用英佛獨蘭伊五國語其體各不同焉直錄予所聞見以爲他日追憶當時之資耳

明治十七年九月

侯爵淺野長勳識



242676

海外日録

明治十五年六月十八日

(雨日照)

西曆一千八百八十二年六月十八日

國駐劄特命全權公使の命を奉し午前七時十五分妻と共に出發す

隨行外務書記官田中三郎外務書記新橋停車場に至り樓上に休憩す而して有
生市來政方從者石川完治山田貢一郎

栖川親王殿下も亦本日歐洲に出發せらるゝを以て隨行の官吏と共に樓

上に會して發車の時刻を待つ此日親王大臣參議諸省の官吏各國公使及

ひ予か親戚舊知在廣島縣土惣代寺川行送別のため參集し場内爲めに填塞立

錐の地なし午前八時殿下と共に別仕立の汽車に乘し九時前横濱停車場

に着し直ちに馬車に駕して鎮守府に至り休憩す當所迄送別の人も亦多

し各告別して鎮守府の小汽船にて飛脚船タナイス號に乘す殿下の一行

及ひ予か一行英國留學の華族前田利武廣島縣下正傳寺住職金尾楞嚴尾金

氏は予に同 其他二三の書生等渾て二十人各其部室を定め荷物を收むる等
行を依頼す 一時混雜せり且つ船中迄來送する者も亦尠なからす午前十時號砲一彈
噸に錨を抜く○此飛脚船タナイス號は橫濱香港の間を往反する佛國の
船なり船舳裝飾通常にして別に記載すへき景狀なし船室は上中下の三
等に別てり○此日細雨朦々として房總の連山豆相の峻峯も雲雨の中に
ありて遠別の一觀をなすに由なく午後より風浪起り晚來動搖最も甚し
ふして船疾に罹るもの多し

十九日 (雨月曜)

午前紀州洋を經過し風浪漸く收る

二十日 (曇火曜)

午後鹿兒島の西南を經過す此日動搖甚しからす

二十一日 (雨水曜)

午後琉球洋を經過す霖雨霏々として頗る岑寂を増せり

二十二日 (晴木曜)

支那海に航す此日天氣快晴日暮て月色皎然たり

二十三日 (晴金曜)

四面山を見す只茫々として遙かに雲影を望むのみ午後二時頃帆船二艘
西南より東北に航するあり蓋し臺灣より支那に航する船なるへし又多
少の水禽波間に浮沈するを見る

二十四日 (晴土曜)

風波靜穩數艘の帆船到處に茫茫たり晚來遙に福州の燈臺を見る此夜月
色霜の如く細波錦を爲し景色頗る好し

二十五日 (晴日曜)

靜穩前日の如し午後初て香港の島嶼を望み逐次連島の間を馳せ三時四

十五分香港に達す領事安藤太郎英國鎮守府長官代理某氏を導き有栖川親王殿下を奉迎す殿下直ちに小汽船に乗して英國鎮守府に着御せらる予は一行と共に別汽船にて上陸客舎に至る吾か國出店工商會社々員等兩三名來り百事周旋せり領事館書記生平部某も亦來る

○香港は北緯二十二度十六分東經百十四度九分に位し溫度六十度に降ることなく四月の候より毎ねに百度以上に昇り四時暑ありて寒なし郷里を發してより恰も梅雨の候に際し海上更に暑氣に觸るゝことなかりしに當港に至り俄然炎熱燒か如く頗る困難を覺ふ此地四面山を以て海を包み衆山皆青草を生し樹木なし山嶺峻秀にして皴紋岩石點苔の狀をなし眞に畫か如し此地は一千八百四十一年支那より英國に割與し英人埠頭を北濱に開く市街は灣より山脚に連り次第に級をなす人口年を逐て繁殖し現今凡そ十三萬人に及ふ支那人尤も多く皆稅居して商價を

なす漆器陶器の類多く陳列せり歐人は山に沿ふて住館を建築し屋造も亦高朗にして樹木を栽培し幽邃清潔を主とす土地多く花崗石を産す故に石造の家屋連檐して白堊の如し又山に依りて公苑を開けり此地往昔英の屬地たらさりし頃は山に樹木なく又石造の家屋なく渾て不毛の荒地にして土人の矮屋あるのみなりしか千八百四十一年英人之れを領せしより道路溝渠を修築し種藝培養至らざる處なく僅に三四十年間にしで東西百貨輻湊驚く可き商業繁榮の一都會をなせり○市街の傍らに兵營あり英より兵卒を差派し將帥を置き市尹を兼ね○客舎は香港ホテルと號し五層の石造にして構造巨大なりと雖も古屋にして清潔と云可らす第二層より最上層迄房を分て客室となす使丁は皆支那人にして客室及び食堂の給仕等合せて百人に下らざるへし食事の時刻に至れば鉦を鳴らして衆客に報す第一の鉦聲にて衣服其他の用意をなし第二の鉦聲

にて食堂に至る食堂の廣さ凡そ百有餘人を入るへく數十の食案を分設し夥多の給仕即ち支那人白衣を着け食案の左右前後を來往し恰も市場の景狀に彷彿たり予か一行は食堂中央の大なる食案を領し此夜晚餐に領事館書記生及び工商會社々員等を招て會食す客舎中に理髮店を具す此理髮者は吾か邦人にして久しく此地に留て此職をなすと云ふ○此夜十一時強驟雨來て微涼を送り爲めに熱汗を一洗せり

二十六日 (晴月曜)

安藤領事の妻旅寓に來訪せり○午後四時領事館書記生平部某商會某と共に來て市街へ誘引す客舎を出るや輿丁群をなし肩輿を携來て互に先を爭ひ予か一行に乘輿を勸む皆支那人にして悉く跣足なり門前より肩輿に乗して行く馬車腕車も亦數多あり腕車は吾か邦より舶載せしものなるへし商店は英人の開店多く店頭往々葡萄牙人^{ポルトガル人}を雇使せりと云ふは澳

大利亞の中に葡萄牙の所屬地あり即ち其土人にして尤も能く吾か人種に似たり市街道路曠闊にして路傍に榕と云へる樹木を栽列し接枝空を掩ふて暑炎を防遮す土人は野蕃不潔にして袒裼裸體店頭に跪座し恰も豚犬と一般なり途上鎮臺兵凡そ一中隊練兵場に演習するを見る兵卒皆丈け高く身體強壯にして隊列整頓せり是れより道を山路に轉し稍や進んで輿を下り徐歩し山腹迂回突出の處に至り楊に倚て憩ふ仰て廣東新安の山嶺を望み俯して港灣市街を臨む山海の景致幽雅にして涼風徐ろに來り旅寓の苦熱を忘る歸路安藤領事を訪ふ領事の妻出て接遇し我か邦の茶菓を勸む暫く談話して旅寓に歸る

二十七日 (晴火曜)

安藤領事の招に應し午前妻と共に該氏に至る午餐日本料理の饗應あり主人の配意想ふへし該家を辭して田中書記官と共に鎮守府に至り長官に名刺を投し且つ有栖川親王殿下に謁す三時強旅寓に歸る

二十八日 (晴水曜)

朝餐後公苑に散歩す苑は山によりて地を開き境内闊曠にして奇木珍草あり然れとも老樹古幹に乏き故に幽邃の致を欠けり苑外の路傍は樹木森々として清風微涼を送り稍や熱汗の乾くを覺ふ元と此邊は不毛荒蕪の地たりしを英人勉て開拓種藝し殆んと天然の樹木に異別なきは培養注意の著効と云へし暫く遊歩して旅寓に歸る○午後鎮守府より長官代理佐官某林大書記官同伴來訪せり○今夕乗船の治定なる故に命して旅装をなさしむ且つ今夕鎮守府よりの案内により田中書記官と共に練兵場に至り練兵式を見る有栖川親王殿下臨閱せらる此間に妻及ひ從者は皆乗船せり日沒再び旅店に歸り晚餐を辨し八時強端船に乗して本船に搭す○當港の夜景は最も有名佳絶にして此地に到る者皆殊更に海上に舟を浮へ此景を一見すと云へり今は甲板上にありて居ながら此佳景を望む市街の燈光千

花萬點岸頭より山脚に連り而して月色皎潔白壁を照し錦波激澗船端に漾ふ誠に稀有の好景にして心を樂しめ眼を歡はしめ詠觀刻漏を移せり○此船は佛國エムエム會社の飛脚船九艘の一にしてイロワジ一號と稱し長さ百三十五メートル凡そ吾か客室は一等より五等に至る食堂は三等以下は素より各室の裝飾及び器具に至る迄美麗にして多少の遊具も亦備る其他浴室便所等は鐵管にて潮水を流通せしめ以て清潔を旨とせり且つ船將以下水夫使丁惣て百人に下たらす而して印度洋は頗る炎熱なる故に衆客皆支那風の長椅子マンリキにて造れるものを購求して甲板に列置し此椅子に依り室内にあること稀なり

二十九日 (晴木曜)

午前十一時有栖川親王殿下乗船せらる十二時拔錨大洋に向て駛す此日風浪穩なり

三十日 (晴金曜)

曉より逆風船稍や動搖す午後に至り風波收る

七月一日 (晴土曜)

午後地方に當り遙に小嶼を見る此夜波平にして満月海上を照す

二日 (晴日曜)

十二時前柴棍の河口に廻航す此河は安南の北境より南流する五百餘英里の大河にして濁流滔々潮水混淆す河身廣きは凡そ吾か五六丁狭きも一二丁に下たらず河口を廻ること凡そ十餘英里兩岸の地皆平澤にして潮去るときは僅に七八寸の平土を出し潮來れば樹根悉く水底となる猶ほ洪水の堤防を決して草木を浸埋するか如き狀あり澤地は渾て林藪にして棕櫚尤も多く四方に山丘なく亦人家なし澤中縦横に河溝を通し漁人の小艇を浮へて上下するあり尙ほ進航すること數里始て平野を見る

人家二三戸或は十餘戸遠近に點在す皆矮陋の漁家農屋にして水涯を距る咫尺家作は吾か僻村邊浦の民屋に彷彿たり此邊多く水牛を放牧して處々に群をなせり午後一時驟雨炎熱を洗ふ三時十分號砲一發柴棍に達し河岸の棧橋に着す此巨艦にして如此繫船を得る以て此河の深きを知るへし此河の中途より土人の水先案内者を載せ進航する常なりと云へり港内大小の汽船數艘碇泊す皆佛國の船なり

○柴棍府は北緯十度四十七分東經百〇六度四十五分に位す柴棍河を狹みて人家を列ぬ河東を本府とし河西は村落なり此地の炎熱は嚴烈なりと聞けとも香港よりは却て輕し是れ亦非常の候なりと云へり○當府は安南の内眞臘部の都府にて今は佛國の屬地となれり而して船路の便宜にあらされとも佛國政府より年々八百萬法の金を郵船會社に付し往來必す此に繫船せしめて此地の運輸を助け且つ地民に利潤を蒙らしむ全

府の人口凡そ十八萬人餘支那人巫來由人暹羅人及ひ歐羅巴人等雜居すと雖も支那人尤も多きに居れり土人は惣て色黒くして鼻低く面平かに髪黒し小民は男女同装にして殆んど辨知す可らず頭髮は梳りて頂に結ふ一般に裸體少なければとも跣足多し男女共に檳榔葉を嚼みて唇齒紫黒恰も鐵漿水を塗たるか如し

三日 (晴月曜)

午前六時半端船に乗して上陸し直ちに馬車に駕して市街及ひ公園地を周觀す當地は道路幅員甚た廣く修繕能く整ひ路傍に樹木を列栽して能く繁茂せり香港に比すれば人戸少く土地頗る曠闊にして榕樹棕櫚巨大なるもの多し公園地の内動物を飼養せる屋宇あり銅網を以て四面を圍み大小の珍獸異禽を放つ其數幾百なるを知らず又小屋の前面に鐵の格子を設け虎の牝牡を飼養せり一般の市店は密比せず概ね矮宇茅屋にし

て多くは土床なり處々に雜小の食物店あり菓物片肉の上に蒼蠅充滿して黒胡麻を散布せしか如し路傍に阿片の字を大書したる旗幟を戶外に掲げし一小屋を見る又大なる水牛に荷車を付け運輸來往すること甚た繁し○佛國鎮守府及ひ病院あり皆高朗の煉瓦造なり鎮守府へ名刺を送る其他造船場穀倉及ひ羅馬教の寺院ありと聞けとも一見を経す九時半食店に至り喫食し十二時強艦に歸る二時三十分拔錨此時傍らに碇船せる佛國船より祝砲を發す五時小雷あり天曇り驟雨來り冷氣を覺ふ○出港の節も前の如く水先案内者乗船し數里を経て小船に移り去る

四日 (晴又曇火曜)

午前九時驟雨冷氣を覺ふ時々天曇り海上穩なり

五日 (曇又雨水曜)

朝來大に冷氣なり聞く當節は時々西南より驟雨來て炎熱を洗除し爲め

に意外の冷氣を覺へりと八時半雷あり十時前俄然大雨濛朧として海上
咫尺を辨せず時々汽笛を發して進航す午後一時雨漸く歇む二時西地方
に當り小島の續するあり蓋し新嘉坡シンガポールを去る遠きに非らざるを覺ふ又
東方に平坦な島嶼の連綿たるを見る四時半左面に燈臺の傍を瞥過す
岩上に屹立して棧橋を架し下たに小艇を繋ぐ此邊の島嶼は樹木森々と
して更に一點の禿山なし午後七時前面遙に新嘉坡の市街を望む街頭正
に點燈に際し百千の燈光閃々として星羅す七時半港内に假泊す

六日 (曇木曜)

拂曉港岸に繫船し八時半上陸す

○新嘉坡府は北緯一度十二分東經百〇三度五十二分に位し人口凡そ十
萬人支那人巫來由人歐羅巴人溫德斯坦人等雜居し其内支那人尤も多し
此地は滿刺加半島の南涯蜿蜒出せし處にして赤道直下に近接なるは航海

線路中此地を以て最近なりとす一千八百十九年英國より滿刺加に照會
して此地を買取り埠頭を開けり海を隔て蘇古搭刺スウカダラに接し印度支那海の
咽喉に當り船舶爰に輻湊し年を逐ふて繁榮に赴けり港の前面には大小
の島嶼羅列して樹木蔚蒼たり地熱帯にして到る處青草綠樹ならざるな
し此地棕櫚多く巨葉團扇の如く又マンギユスタンと云へる菓樹を栽培
し目下實を結ひ未だ全く熟せず此菓實は熱帯地方に生長するものにし
て他の地方に之れを見ることなし形は蜜柑に似て色唐柿の熟したるか
如く皮厚くして中に純白なる實を包含し皮實能く分る味ひ淡白にして
口中尤も清涼なり印度洋航行中は船中時々之れを食せしむ其他の菓物
も亦多し此地柴棍に比すれば土地廣く人口多數なれとも市街は支那人
及び土人の開店多くして甚だ不潔なり袒裼裸體の者も不少市街到る處
臭氣鼻を突き甚だ健康に害ありと思へり途上に銅黑色の人種多く甚し

きは眞に古銅佛の如し衣服は白地に紅色の布を施し以て袴の如く腰を
 巻き頭に又紅色の布を纏ひ概して跣足なり婦女及ひ兒童は鼻頭に金色
 の輪を貫き耳輪と共に瑠々たり馬車は頻りに來往し馬大ならされとも
 皆能く馳す又荷物を運搬する牛車も不少○上陸直ちに馬車に駕して府
 内を散驅し英國鎮守府に名刺を送る夫れより客舎ホテル歐羅巴に至り午餐
 を喫す柴棍の食店に比すれば下等なるか如し廣き玉突場あり食後技を
 試むものあり土人此場に衣服又は玩物を携へ來て買はんことを強ゆ又
 幼戯奴來て種々奇異なる技術をなし就中小蛇を使ふこと自在にして人
 目を驚かせり午後四時艦に歸る土人種々珍異なる貝類を小艇に載せ來
 て販賣す洞ヲ貝の如きもの最も多くして中には美麗なるものあり又兒
 童裸體にて片舟幅二尺長一丈位を打て船下に蟻附し各先を争ふて海中に潜没し
 船客の投錢を挑む而して甲板より銀錢を海中に投すれば衆兒其沈没せ

し處に注目し身を翻して海中に没入し忽ち小錢を銜て浮出せり其活潑
 なること池中の蛙の如し

七日 (晴金曜)

午前六時解纜海上平穩なり暑氣頓に増加し香港爾來の炎威なり終日海
 峽を駛す此間燈臺二ヶ所あり夜來稍や冷氣を覺ふ○昨夜新嘉坡に於て
 乗客數多あり

八日 (晴土曜)

風波靜穩鳩の如き水鳥海上に翱翔し又大いさ三尺許の魚飛んで海面に
 躍る

九日 (晴日曜)

海峽を出大洋に向て駛す船稍や動搖す食堂案上に綱を張る船動揺すると
きは食案の器
皿を揺落せしむる故に案上縦横に井形の如く綱を張り其中間に器皿を嵌置し轉落を豫防
す尙ほ動搖甚きときは甲板に高く一と筋を張り之れに紐て歩行す爾後食案及ひ甲板に豫防

を張るは皆此 本日より印度洋に航す
例と知るへし

十日 (曇月曜)

風波前日の如し渺茫たる蒼海四望水天に接す

十一日 (曇火曜)

本日も四方見る處なし夜來船動搖稍や強し

十二日 (晴水曜)

午前九時前より風波稍や輕を覺ふ十時印度地方遙に青黛を望む午後
及んで地方距離四五里大小の島嶼陸續たり二時半汽船順風に帆を揚げ
東方に向て駛航するを見る又地方に當り平坦なる島嶼聯綿たり五時錫
蘭島のゴール港を經過す距離凡そ一里餘遙に白堊の皎然として日に映
するを見る○錫蘭島は釋迦修道の靈蹟にして此港に浮屠あり釋迦跌座
の像及び涅槃の巨像其他奇跡許多あり然れとも佛教萎微遺跡草蕪に風

し衰頽を極めたりと聞く此港正面は汪洋たる大瀛にて港口亦曠闊故に
大浪毎に南方より來盪して巨艦も爲めに撼動し動もすれば器皿を撼落
し碇繫に便ならず故に本船は該島コロンボー港に至りて投錨すと云へ
り十一時コロンボー港前に達す烟火を揚げて合圖を爲し水先案内の來
るを待つ暫くして案内者小艇を打て來り直ちに本船に乗り徐々港内に
入り錨を投す港岸街燈星列して火光閃々たり

十三日 (晴木曜)

夜未だ明けざるに土人船下に蟻附して窓外甚だ喧噪拂曉船戸を開くや
直ちに衣服金飾等各種の物品を携來して船客に購買を勸む皆色黒くし
て頭に紅布を纏ひ悉く跣足なり港内大小の船舶十五六艘碇泊せり又小
汽船數多ありて灣内を往復し汽笛喧々たり此邊の土民は一種異形の
小艇を浮て頻りに灣の内外を往反す此小艇は巨材を刳し其幅二尺許り長

二〇
さ二丈餘深さ漸く腰下に及ぶ船體甚だ狹長なるか故に傾覆を防ぐ爲に舟の片椽より弓形の材二箇を横に縛り之れに浮槎を附して平均を取る故に危険に似て敢て轉覆することなし舟子兩人楫を以て押行し或は側面に帆を揚げて駛行す其疾きこと矢の如し此船は當地方椰樹棕樹を以て手製し用ゆるものなりと云ふ

○錫蘭島は元とカンリ國と云ひ古より獨立の一國たり南は大洋に向ひ海岸に平地多く東南には山嶺重疊山色青々たり一千五百〇五年に葡萄牙人始て通商をなし海濱の地は其所屬に歸し後ち和蘭人之れを占領し百三十有餘年を経て英國の領略する處となり其後一千八百十五年に至り全島皆英國の爲めに占取せられ各州に縣邑を分置し邑長は土民の内より公撰せしめ以て政務に關與すと云ふ當港は北緯六度五十五分東經七十九度四十五分に位し人口凡そ七萬人全島の首府たり英國より守牧

其他の官吏を差派し政治を統理せしむ○午前十一時有栖川親王殿下上陸せらる鎮守府砲臺より祝砲を發せり十一時半予府内巡觀の爲め船中にて案内者を雇ひ又船將より特に小艇を用意せり上陸場は陸地より築出すこと四五十間此間全面に屋宇を設け運輸の小船輻湊せり上陸直ちに馬車に駕し先づ博物館に至る館の前庭に衣服を着したる大なる人像あり黒質の大理石を以て之れを造れり博物館は二階の煉瓦造にして觀場を階上階下に區分し階下又三區に分つ階の正面には鮫及び立ち魚の如き其丈皆六七尺有餘の乾干したるものを陳列す左側の場内には印度古代の瓦器石佛及び石塔其他樂器に類するもの或は矛の如きものを陳列す又右側の一場には多くの書籍新聞紙等を列し縦覽に備へ二階には惣て一面の觀場となし鳥獸魚鼈の乾干せしもの又大象巨鹿の骸骨を陳列し虫類は多くアルコールに漬て硝子棚の内に保存し形骸肉色眞に生

物の如し惣て魚鳥虫類共に奇異珍怪なるもの多し列品の内巨大なるものを除くの外は壁に添ふて戸棚を設け前面に硝子を張り此内に陳列し又は中央硝子張りの臺を据へ此内に陳列したるもあり數多小石佛の内釋迦の小像あり座禪の形にして金色尙ほ存せり是等の小石佛は皆中古土中より掘出せしものなるへし○當港は人家甚だ稠密ならず土人の家屋は椰葉を以て屋宇を葺き或は編みて壁となし庇しとなす皆矮屋狭少にして床を張らす地上に起臥す菓物店には青蠅充滿して不潔甚し土人は色黒く男女共に白き長幅の布を以て腰より以下を纏ひ右肩より左腋に廻はして結ひたり蓋し袈裟の遺風なるへし而して袒裼跣足なる者多し頭髮は長くして頂上に結ひ男女同裝にて識別しかたし男は籠甲の櫛を頂に挟む婦人は概して醜婦多し○一種巨大なる菓實あり切斷して物を盛り水を入るゝの器とす所謂托鉢なるものゝ由來する所と云ふ馬車

は數多ありて不潔ならず馬は亞刺伯種アラビヤ種もありて頗る駿長なり水牛野牛尤も多くして曠闊なる草原に放牧せり運輸は渾て牛車を用ひ車上に棕櫚椰樹等の葉を編みて長圓曲の覆蓋をなし物品を載積して運搬す些少の物品は器物に入れ頂上に載て往反せり道路は惣て曠坦にして修掃能く整ひ樹木森々花卉嬋媚行く處として庭園の如し而して路傍處々に樹木の繼栽をなし竹木を以て之れか周圍とし懇に培養す渾て印度地方は草木能く繁茂し産物饒多にして生計甚だ安穩なるか如し就中該島は咖啡を産出する極めて多く歐洲に輸出する高頗る大にして其價一千數百萬弗に及ひ之れに亞くに椰子及び椰子の油棉花等を以てし而して英國皆之れを掌領す巨大の國益と云へし○海濱より南大洋を望めは海水天に接し渺茫として際涯あることなし恰も好し天氣晴朗風波能く收り心思爽快氣力自ら闊大にして誠に眺望過絶の景と云へし

吾か東海道より遠州洋を望か如し

日の如く風波起らざるも港灣の外は浪勢石堤を撃て雪花翻り轟々と
して雷聲を發す二時半艦に歸る四時二十五分拔錨せり

十四日 (曇又雨金曜)

午前八時驟雨來り雷電一霹忽ち颶風起り須臾にして歇む然れとも大洋
自然の浪力ありて動搖甚し食案に綱を張る午後二時驟雨又大に至る此
日終日鬱陶として四面一點の山影を見す心氣自から閉塞せり

十五日 (曇土曜)

四方見る處なし只遠近に黒鳥の飛翔するを見るのみ

十六日 (曇又晴日曜)

波浪稍や軽く四望一螺なし

十七日 (晴月曜)

横濱拔錨以來毎に逆風なれとも幸に甚しからず然るに本日より大洋の

風針に逆航するか故に船の揺動漸く強く衆皆航海の永きに厭倦して稍
や疲勞を覺ふ蒼海森茫只海鳥の飛翔するを見るのみ

十八日 (雨又晴火曜)

朝來風浪起り午後帆を揚ぐ爲めに船傾斜して器皿を轉落し行步蹣跚動
もすれば轉倒す

十九日 (曇水曜)

斜面に帆を揚げ激浪蕩々千鯨萬鬪の間を傾駛す巨艦爲めに震動し餘濤
高く飛んで天幕を激越し宛も飛瀑の頭上より決流するか如し甲板に綱
を張るは本日を以て始とす然れとも航海既に三旬の久きを經過し動搖
稍や慣習となりし故か船疾に罹るもの稀にして如此怒波激濤亦壯觀と
云つへし

二十日 (曇木曜)

昨夜來撼動倍甚し跟跳として衣服を着くするも尙ほ難し怒濤屢々甲板を激越して響き雷霆の如く架上の器皿を撼落し案上の食器を毀壞す聞く昨夜半來北緯九度の方位に航行し全く風針に直向する故に動搖如此しと午後一時過に至り浪勢漸く減し二時過に及んで甲板の綱を撤す同時南方遙に青黛を見る則ち阿非利加の島嶼なり三時前風浪大に收まり頓に靜穩衆皆甲板に出て遊戯す三時過阿非利加の山太た遠からず然れとも煙霞幽靄にして判然たらず四時に至り最も近接し距離一里に及ばず山色眼中に觸れて恰も吾を讚州海岸の山形に彷彿たり而し皆藉山にして山麓處々に沙石を現はし暑炎赫々烈火の如く船中亦炎度を増せり夜來天色清朗月光雪を欺く風景佳絶と云へし

二十一日 (晴金曜)

阿非利加地方砂漠の炎風面を侵す午後七時亞非利加地方に燈臺を見る

歐人甲板にピアノ琴の如きものを彈し船中の厭倦を慰す薄暮海上穩かにして稍や冷氣を覺ふ

二十二日 (晴土曜)

午前四時亞刺伯の亞丁港に達し灣内中央に投錨す六時室を出て一望すれば峻峯屹として相對し海灣西南に向つて開け山脈長嶼を匝らし曠邈として窮りなし山野枯燥して一點の草木なく山腹山麓處々に灰土の如き白沙を現はし炎氣酷烈目將に眩せんとす抑も亞刺伯地方は炎熇毎ねに燒か如く周年雨なく亞丁の如きも大抵四五月に一度の驟雨あるのみ○亞丁は紅海往來の咽喉にして北緯十二度四十分東經四十四度五十七分に位す一千八百三十九年英國此地を買取し東南洋通航の驛所となしてより爾來民口繁庶し目今三萬有餘人に及へり鎮臺を置き砲臺を築き其山頂に一箇の兵營あり白堊屹立し以て數百里を候觀す可く電線山腹

を直下して本營に達す山下の沙場に廨舎及び土人の茅屋僅々村落をなす市街は山を越て内部の谷中において船中より見へす土人は銅色に黒色を接へ頭髮赤黒にして散縮し釋迦佛の頭上の若し衣服は大抵半身を裸にして腰に長幅の布を巻き婦人は衣袴共に紅色の棉布を用ゆ當港も新嘉坡の如く海岸の兒童僅に二三人を容るへき鯉魚形の小艇を泛へ來て船下に集り客をして銀錢を投せしめ水底に潜入す泊舟の間毎に船側を去らす投錢を挑めり港内十六七艘の汽船碇泊せり○當港上陸する筈なりしに印度ジャワ地方に惡疫流行し乗客の内該地方より乗船新嘉坡港より乗船せし人及び荷物せしものあるを以ての故に上陸を禁す空く船中に光景を費せり鎮守府より士官及び醫員小船に搭し船下に就て船將及び醫師に應接し船中該病の有無を審問して去る其他エムエム會社々員其他魚菜を賣る小民等も皆船下に就て應接辨用せり又橋頭には黄色の旗を掲流行病あると

き掲ぐるの旗なり○午後より運輸船輻湊し各種の荷物を本船に積む其器械の上下する甚た喧く又石炭を積むこと夥多にして炭粉風に散して衣服に充ち面膚爲めに黒し本日は潮風面を吹て暑炎強からされとも積荷器械の響き曉に達して終夜安眠を得す○此地に溜水池あり壯觀なりと聞く此地は元來雨水に乏を以て紀元前此地の王キングオスソルモンなる人地形を按し溜水に恰當なる溪谷を搜索して此地位を認得し則ち岩穴に石灰を塗り池を造りて雨水を蓄溜するの處となせり英人此地を占領せしより更に之れを修築開作して大池となし其構造の廣大なること以前に十倍せりと今回上陸を果さるにより此壯觀を實視するを得す只聞く處の概略を記するのみ

二十三日 (晴日曜)

南風強く波浪起り遙に遠洋を望めは白馬亂馳するか如し曉に至て漸く

收る○今夕出帆を期せし故に午後より乗客數多あり皆歐人なり五時二十分拔錨紅海に向て航す風波靜穩夜來頓に冷氣を生し熱帶地方にして豫想外の候なり

○紅海は洋語にレッドシイと云ひ往古より此稱ありと云へり海底に多く美質の珊瑚を生し海水澄徹して之れを探るに便なり又沿海の地に緒山多きを以て此名を與へたりとも云ふ○此紅海の咽喉なる海峡に有名なる英國の砲臺あり夜半に該處を経過せし故に之れを見るを果さず聞く處に依れば此處はペリオン島と名付け亞非利加のアベスシニヤ國に屬する一孤島にして前面は阿刺伯の西北モンデアの海角に對し峽の幅員三英里に満たす英人此島をアベスシニヤ國より九十九年の條約を以て之れを借り受け砲臺を築き戍兵を置き亞丁より十五日毎に交代守衛せしむ又一箇の燈臺を設置し光線遠洋を照す此處は印度往來の要路な

るか故に砲を備へ兵を置き以て其險を扼守し航通の船舶をして皆此火線の直下を過ぎらしむ抑も英國所屬地の廣且つ大なるは皆人の聞知する處なり而して今回の航路香港を初とし新嘉坡錫蘭島の諸港及び亞丁ペリオン島の如き樞要の地は皆英人の所領にして吏を派し兵を屯し之れか政治を施し之れか守衛を設け威福を以て地民を御す印度其他饒沃の地を占る極めて多く各地より年々收得する處の物産其國益果して幾億千萬なるを知る可らず航路至る處該國の軍艦商舶の碇繫せさることなく兵備整頓し貿易繁盛なりと云へし

二十四日 (晴月曜)

海上穩なり微風面を吹て炎熱を拂ふ午前十一時海峡の左側亞非利加島嶼の沙濱に汽船の半身埋没したるを見る聞く二三年前航通のとき風雨暗黒に際し忽ち方向を失し此處に衝突したるなりと蓋し此海峡に於て

は動もすれは如此難に罹ることありと云ふ午後暑氣頓に加はる夜來風
静にして皓月海水に映し四望豁然たり

二十五日 (晴火曜)

炎熇酷たしく海上は油を漲らすか如く沙漠の浮埃黄色を帯ひて水面に
滿つ紅海航行中は日々此浮埃を見る

二十六日 (晴水曜)

烈炎前日の如くなれとも快風面を吹て暑威堪へ易し四顧渺茫として終
日見る處なし

二十七日 (晴木曜)

午前亞非利加の島嶼を見る暑氣稍や輕し晚餐畢て甲板に出れば忽ち島
嶼面を侵す皆不毛禿緒にして山麓は石沙多し夕陽没して燈臺を見る夜
來月色清明納涼尤も好し

二十八日 (晴金曜)

午前七時二十分蘇士スエズに達し姑く錨を投す

○蘇士府は北緯二十九度五十八分東經三十二度三十三分の地に位し埃
及國に屬す亞丁より當港迄の間を紅海とす今を距ること二十六年前に
は人口四千に滿たさる一小港たりしか英人此地より亞歷山大府アレキサンドリアの間に
鐵路を布き往來を便にし紅海と地中海と往復の要港となりしより人口
年を逐ふて増殖し目今殆んと一萬四千人に近しと云ふ炎熇赫々たる赤
野に白堊の參差たるは則ち蘇士府なり此邊は渾て茫々たる大沙漠にし
て赤野天に連り一簾を見す土人駱駝に跨り漠野黃埃の中を來往す又港
濱に數頭の駱駝あり悠然として逍遙せり此地方は降雨甚た稀にして連
年一雨を見ることあり大抵五六年に一度の大雨あるのみ蓋し亞非利
加及び亞刺伯の地方概して皆然りと云ふ港内數艘の碇泊船あり本船の

茲に錨を投するや土人蟻集し珊瑚帽子襟飾煙草埃及風俗の寫眞其他菓物等種々の物品を携へ頻りに購買を勸む此地の小艇は歐洲様の、パツテ
ーラの如くにして異形の船を見す○頃日埃及國に争亂あり曩日柴棍に
於て此一報を聞き若し蘇士運河の航通を封鎖せしときは奇望峯を回航
せざる可らずと衆皆案煩せしに戰既に止んで通船支障なく進航するを
得たり抑も此戰の概略を聞くに埃及國は土耳其國に管隸したる王國に
して而して英佛より財政に關し當要の官吏を派遣し以て政務を支配せ
り當時陸軍卿にアラビと云へる人頗る威望あり尙ほウビシール最權職
の職を得て益威權を專にせんと欲すれとも英佛財政の支配を脱せすん
は志望を達するを得へからず而して當王は英佛に従順にして吾か事に
利あらざるか故に窃に前王に勸るに再ひ王位に復し國威を伸暢せんこ
とを以てし且つ人民に説くに埃及國は則ち埃及人の國土なり而るに外

國より財政を支配し國民を束縛し吾か國民をして彼れか奴隸と均しか
らしむるは切齒痛憤に堪へざる處なり今にして慮りをなさすんは汝等
素と信仰する處の宗教も亦彼れか羈絆に掛り外教を奉せずんはある可
らざるの悲歎に陥んと頻りに民心を教唆煽動し内亂を起さしめ且つ陰
に土耳其に内結する處ありしと如此謀略をなし人望の日に歸向するを
察し機に乗して吾か統轄する處の兵卒を唆して當王に強迫せしめ遂に
全權を掌握し而して英佛駐劄官に向て戰端を開き遂に一争亂を起せり
時に英國海軍中將某果斷以て亞歷山大府を炮撃し忽ちアラビを虜に
し暴亂を戡定せり爾來各國の政略上千種萬端に亘り遂に土國の首府コ
ンスタンチノーポールに於て大會議を開き以て埃及の處分を議す目今此
會議中なりと云ふ此變動の爲めに當港人民婦女は遠く亂を避け男は概
ね舟中に假居し人戸空漠として薪水を求むるに由なき景況なり○午前

十一時四十分拔錨進航す河中は疾駛するを許さず河の左右は白沙千里
 茫々として津涯を見ず風大漠の炎熾を送て暑熱頓に加り殆んど堪へか
 たし午後五時三十七分運河中第三の湖水に入り姑らく錨を投す此に投
は前路進航の都合を計りしならん 此湖中に佛國軍艦其他の商舶五六艘碇泊せり同七時十
 分錨を抜て徐行し八時前河身最も狹隘なる處に至りて投錨す此河中は
 夜航を許さず故に茲に碇泊す左右沙堤高くして平野を見ず恰も溝渠の
 中にあるか如し晚來月色皎然清風微涼を送り心氣快爽を覺ふ夜半に至
 り風歇み暑氣頓に加り船客徹夜睡眠を能せざるもの多し

二十九日 (晴土曜)

拂曉拔錨徐々として進航す午前十一時三十分ポルトサイドに達し投錨
 す此處は運河を出て地中海に入るの處なり○抑も此運河の開鑿は一千
 八百五十餘年代佛國學士レッセプス氏埃及王に建言して凡そ十五年間

言ふ可らざるの困難を忍び堪ゆ可らざるの辛勞に耐へ百折不撓の精神
 を以て遂に其功を遂げ一千八百七十年より通船を始むるに至れり運河
 の距離はポルトサイドより蘇士迄百英里にして中に湖水ありマピツテ
 ル湖ケムサー湖ハラ湖メンザレ湖の四つにしてマピツテル湖は苦水な
 り人之れを飲めは乍ち嘔吐すと云ふ湖の形は狹長にして大河の如し湖
 の前後には數箇の家屋あり園庭を設けたりケムサー湖は運河の中央に
 して風景清快なり湖の西岸白沙の岡上に蘇士往復の汽車驛ありボラと
 云へる樹木を栽へ樹間に屋壁峻然たるは則ち驛舎なり東岸は赤野千里
 茫々として大洋の如く烈日沙漠を爍し目將さに眩せんとす而して多少
 の駱駝は悠々として砂場に遊歩す亦奇觀なりハラ湖は湖頭に矮小の民
 屋數戸あり岸高くして内地の景を見ずメンザレ湖は四湖中の最大にし
 て岬角地中海より起りて湖内に連れり此邊右は湖水洋々として天涯に

接し左は大漠茫々として雲際に連なる此湖は則ち運河の盡くる處なり此運河の未だ通せざる以前に在ては地中海と紅海との中間隔絶して遙に喜望峯の大洋を迂回し或は埃及の沙漠を涉獵せしことにて其不便不利なること幾千年間且つ幾千萬人を苦しましめしを知る可らす而してレツセプス氏當世に生れて古來稀有の大偉業を立て最大便益を起し歐細弗三大洲の通路貿易大に其面目を改めたり嗚呼該氏の偉徳永く天壤と與に窮りあることなし此河を航するものは宜くレツセプス氏に向て謝せざる可らす

○ポルトサイドも亦埃及の地にして北緯二十九度五十八分東經三十度に位す此地はメンザレ湖の東岸にありて西北は大漠渺茫涯畔なく東南遙に地中海を望み海水淼々として天に連なる當地は元と茫漠たる無人境なりしか運河開通せしより一邑をなし漸次人口増殖して今は殆んと

一萬人に及へり土民の營業は郵便問屋其他雜店あり市街は曠闊にして不潔ならず市肆頗る熱鬧英佛領事館其他病院寺塔あり産物は咖啡煙草を美とす一酒店あり婦女數名裝飾して客を待ち客來れば則ち樂を奏して意を迎ふと云ふ家作多くは吾か邦の倉庫に似て屋根は薄赤色の瓦にして遠見すれば吾か邦の新なる柿苜の如くに見ゆ海濱に煉瓦造の燈臺あり高さ二十間有餘空に聳へて構造甚だ壯觀なり海濱の沙上に豚皮にて造れる運水袋あり其色漆黒にしてゴム片の如し蓋し他年を経たるものは皆如此と云ふ當地も亦用水に乏き故恒に遠地より水を運ぶ此豚水袋は運搬甚だ簡便にして水を去れば一塊の革となる其運搬には駱駝を用ゆると云ふ土人の風俗男子は窄袖の單衣指貫の如き袴を着す婦人は黒巾を以て面を掩ひ兩眼のみを出す衣は下幅頗る廣く歐人の寢衣の如し○當今亞歷山大府戰爭後に際し英佛其他の軍艦港内に輻湊し甲鐵巨

艦萬橋林立凡そ四十餘艘の内概ね英佛の軍艦なり方今如此艦隊碇泊せるか故に府内最も繁盛を極むと云ふ○當港碇泊の伊國軍艦々長代理某來て予か來着を祝し且つ安否を問ふ又當港駐劄同國領事も亦夫婦相伴ふて手を慰問し雜花を送れり談話終て去る田中書記官をして艦長に答禮せしむ○伊國羅馬府吾か公使館へ當港着船を電報す午後五時二十分拔錨地中海に進航す夜來月色清く氣候冷かなり

三十日 (晴日曜)

氣候前日と變り晝夜暑氣甚た薄し四方螺黛なく水天一色眼界豁如たり

三十一日 (晴月曜)

朝來室を出れば左右遙に島嶼を見る午前十時右側の島嶼最も近く峯頭陪々として雪かと疑ふ蓋し白石の日に映するなり

八月一日 (晴火曜)

風冷にして暑氣を覺えす午前十時頃より風稍や強く斜面に帆を懸け船動搖す午後十時頃に至り風收る地中海は季節により風浪起り動搖甚しきことある由なれ共今回は好時季に際し平穩なり十一時細々里伊國の海峡を航す海岸萬燈星羅し且つ烟花を揚ぐ頗る美觀なり蓋し聞く本日は該地の祭日なりと

二日 (晴水曜)

伊太利南境の諸島を看過す午前九時前面遙に高嶽の峻峯白煙天を突て噴登するを見る是れ則ち有名なる伊國モンヅエスシウラの火山なり衆皆船欄に倚り相指し相語り眺望に眼を晒せり午後二時半那ナ不見港に達す羅馬駐劄の齋藤書記生及ひ同港領事マルキーズ、コジュエッタ伊國の人にして吾か邦より領事の職務を委屬せらる伊國海軍中將某氏其他有栖川親王殿下接伴掛りの人々を誘引して殿下を奉迎し且つ予か接見に介す禮畢て殿下と共に上陸す

殿下は豫て旅館に設けありし海濱の王宮に到着せらる予は同港客舎テホタルクランドブリユへ着せり此客舎は七階の石造にして階毎とに大理石を敷き室房清潔器具美麗なり前は地中海に面して渺々たる碧波天を浸らす海岸に二線の直街を開き此街の中間に長苑あり綠樹青草幽邃清潔にして最も勝景なり苑内石脩を配置し彫刻皆美術を極む又噴水を設く樂堂は苑の中央にあり堂の内外瓦斯萬點樂隊樂を奏し遊客苑中に群集し或は馬車或は散歩夜闌にして尙ほ散せず蓋し自他納涼の客此地に輻湊するか故に夜毎とに如此盛んなりと云ふ街路は馬車の馳驅往反陸續として軋轢の音日夜絶ゆることなし

○那不兒府は伊太利の西方に於て一要港の地たり北緯四十度五十二分東經十四度十五分に位し人口四十九萬四千人餘伊國第一の都會なり此地元とは那不兒王の都城なりしか歴世驕奢を極め民膏を侵漁し人民甚

しく壓制を蒙りたる地なり一千八百五十九年サルジニヤ王起て南北伊太利の對戰となるに及んで英傑ガルバルヂー氏の爲めに侵襲せられ民心離散して防戦すること能はず一朝敗滅に歸したり王宮は府の中央にあり巍然たる高層の石造にして規模宏壯なり前面の廣遠市街に連り後面は數百段の輪階を設けて海濱に達す當時政府より兵卒をして交番守衛せしむ又海濱に古城跡あり瓦壁草苔を帯ひて屹立す此府の地形は海に面して彎形をなし後ろに岡嶺を繞らし山麓一帶の壤地即ち市街なり氣候溫和にして空氣洞通し身體に適するを以て暑中此地に來遊するもの多し街路は狹隘にして高層の石屋並立し往々地上に日光を受けさる處多し路上は皆石を敷す抑も當府の如きは市街清潔ならずと雖も街路屋造諸般趣きを異にし市上の繁榮店頭の裝致等耳目を一新せしむ路上處々に巨大の石脩を設置す皆美質の大理石を以て彫刻す美術家の名作

なるもの果して多かるへし港内には軍艦其他大小の汽船帆船萬橋林立たり港灣の岸上に海軍の兵營あり赤色の煉瓦を以て建築し巨宇巍然として並立す首を回らして遙に火山を望めは峻峯烟を吐き騷騷として青空を突く那不見より該山麓に至り人家陸續白聖殿として日に映し眺望更に窮なし

三日 (晴木曜)

本日王宮其他名處舊蹟等有栖川親王殿下と共に巡觀の案内を受けたれとも腫物を生して起座の勤に耐へ難きを以て之れを辭す午前十時車に駕し公園地旅寓前の長苑及び市街を巡觀す園内水族館あり館内中央に觀魚場を設く凡そ一坪内外を畫して一區となし若干區あり前面に硝子を張り他の三方は海石を以て壘岩となし沙石を底とし潮水を此中に貯へ各種の水族を飼養せり魚籠貝類概ね我か邦と同種のもの多しと雖も就中異

形奇怪の種類も亦尠しとせず各水中に浮沈逍遙し或は巢窟に入りて首を出すあり又は尾を出し或は沙中に隠没し或は躍て食餌を争ふ前面の硝子厚質にして外部の人跡聲音聊か内部に響應せざるか故に天然の海底に在て自由に棲息を得るか如く各安然として樂むの景狀あり時に館丁魚區に上部より餌を投して衆魚の貪争するを見せしむ章魚あり巢窟に密附して半身を顯はし長足を伸ばして遙に食餌を掠取するの狀最も奇なり此魚區に貯へたる潮水は海中より恒に轉々流換する仕掛けにして新鮮なること大海と異なることなし故に魚貝活潑にして水藻も亦能く繁茂せり○午後五時車に駕しポリシツプ海岸に遊び同處割烹店に投し晚餐を命す蠣及び小貝を料理し風味吾か邦の産に似て頗る佳なり該店は海岸に臨み海水渺々として地中海に連り前面遙に火山の全體を望む本港の灣岸一目の中にありて晚景最も佳絶なり遊客の此亭に來食する

亦多し各食案に座を占め風景を詠め或は相共に談笑す時に數輩の藝人來て樂を奏し興を副へ以て客の投錢を待つなり十時旅寓に歸る

四日 (晴金曜)

午前領事コシエツタ來訪す有栖川親王殿下隨行員加藤譯官も亦來る本日此地を發し將さに羅馬に着せんとす旅裝を命し午後二時車に駕して旅寓を出殿下の旅館に至り告別して停車場に至る領事厚く周旋す停車場の構造は豪壯にして規則も能く整備せり伊太利全國に鐵道會社三あり曰く南部會社曰く中央會社曰く北部會社其他極南部細々サルジニヤ地方に小會社の鐵路あり大抵人民會社にして或は政府より資本金を補助し或は政府にて建築し會社に委托せしものもありと聞く又汽車に兩種類ありジレットと云ひヲニブスと云ふジレットは行程疾速にしてヲニブスは稍や遲緩なり賃錢も亦從て差等あり歐洲各地皆然り而して

鐵路は大體歐洲大陸各地に連絡す今や本府鐵路の概況を一見して歐洲全土汽車の盛大なる一斑を知るへし三時四十五分汽笛一聲正さに那不見を發す車窓田野を望めは田畝能く開け植物能く生す或は禾蜀蔬菜を栽へ或は葡萄を培す農夫隴畔に耕耘するもの皆白衣を着し帽を戴き脊を穿てり土壤肥腹にして穀種草木能く繁茂す山狀野色及ひ耕耘の情況吾か邦と甚た彷彿たるを覺ふ只農家屋造の異なるを見るのみ十時二十五分羅馬停車場に達す公使館より馬車を以て迎ふ直ちに駕して着館す時に十時三十五分なり

○伊太利國は歐羅巴洲の南部にありて地中海に斗出したる大なる半島國なり東北は亞爾伯の大なる山脈にして佛蘭西瑞士埃地利の三國と疆界を接し南は地中海に面し遙に亞非利加洲に對し東は亞德的海に濱し埃及ひ土耳其と波濤を隔て相臨む諺に此國の形狀を以て長脊の如しと

云ふ緯度は北三十六度四十二分より起り四十六度四十二分に至る經度は東六度三十五分に起り十八度三十分に至る面積二十八萬八千五百三十九キロメートル一キロメートルは吾か曲尺三千尺人口二千八百四十五萬九千四百五十一人を有す地勢各部高低交錯し肥瘦同からす西北部は亞爾伯の山脈綿亘し佛、埃、瑞と背脊を分ち峻嶺相重疊す東南は一般に平野に屬す又亞卑尼山南北に亘り全國の中央を限る連綿七百里南部は那不兒に至りて二派に分れ一は細々里島に入る西北亞爾伯の山脈中には歐洲中にて最も高山なるピヤンコ、ローザ、モンウイリ、ステルウリヨアンテララ等の諸大嶽四時雪を帯ひて半空に聳ゆ又亞卑尼の山脈中にはグランサツンデイタリヤの高嶽ありて山脈全國を横截す而して米蘭、威尼斯の地方は亞爾伯の山陽にありて平野を開き佛羅稜、羅馬、那不兒の地方は亞卑尼の山東にありて都會をなす且つ此國は大火脈を伏し那不兒の威蘇威、細々里島

の埃德納等皆炎烟天を衝て起る○河川の大なるものはポー河にして亞爾伯のモンウイゾ嶽より出て、東に流るゝこと數百里亞德的海に注ぐ之れに亞くものはアデゼ河、テチノ河、ブレンタ河、タリヤメント河にして北部に屬し中央にはアルノ河、ウイン河あり南方にはウラルトルノ河、セプト河等あり川流多しと雖も地勢狹長なるか故に甚た大河をなすに至らず○湖水はコンム湖を首とし數ヶ所あり皆山巒の間にありて秀美の風致をなす○大船の航行すへき運河は最も僅少なり但し農業上の利害により村落に運河の設けあるは朗罷地道を最も多しとす○港口の重なるものは熱那、威尼斯、那不兒の三港とす熱那は大西洋の貿易を首とし威尼斯は東洋の貿易を専らとす○氣候は夏時酷熱にして冬月は溫和なり概ね秋冬は雨多くして夏日は否らす故に初夏の候より土地更に乾燥し微風塵を起す冬候は溫暖にして那不兒、羅馬、及び佛羅稜は年々稀に雪

を見るのみ又南風の亞非利加より吹來るものを、シロコと名付く此風時々吹來て更に溫度を益し頭腦を痛ましめ健康に宜しからず北境の諸府は稍や寒しと雖も亞爾伯山の南陽に位せるを以て北地の寒風を遮り堅氷に至ること稀なり全國の地形三面に海を環せるを以て海風蕩滌し大氣透朗にして天色恒に藍青の如く温和の候は甚た我か中國南海に似たる處あり土地概ね饒沃にして草木繁茂し黍稷豐足す最も蠶桑の利に宜し○本國は農業を以て第一とす伊太利は空氣清暢土地肥饒人民一般生業に易し故に又怠惰の氣風を免れず農耕も一般に他國の如く勤勞せざる故か地力の未だ盡さざる處多し農夫は路傍に偃臥し取而して其產物夫は車上に睡り途上往々馬に任せて過ぐ以て一般を概知するに足るは穀類、桑、葡萄、麻、橄欖、黍、蜀、煙草、豆、其他、桃、梨、林檎、櫻、覆盆子、蜜柑、橙、等の菓園處々にあり皆最美なる菓を結ふ又製造物は葡萄酒、絹布、油、干酪、牛酪、紙、家具、硝子、陶器、燒畫具、珊瑚、等とす又畫繪、彫刻、嵌細工モザイクの如きは最も地球上比類なき名産にして皆人の知る所なり而して多く工産を出すの地は北

部朗羅地、威尼斯洲を最とす此邊就中高名なるは絹織にして年々多額を輸出し重もに佛國に送れり威尼斯の玻璃及ひ鏡、佛羅稜の嵌細工皆特殊の名産なり油繪彫刻は國內一般に妙巧を得たり○礦産は甚た著名ならず但し大理石其他の石材及ひ火山より生ずる硫磺、硝石等の高は最も大にして石細工は本國礦利の第一を占む○牧畜は一般に行れて牛羊豚牧場に群をなす○貿易は佛、奧、英、瑞の四國を最も多額とす佛國輸入毎年平均二億フラン法而して輸出凡そ平均を得之れに次て英、奧、瑞の三國とす輸出入は伊國統一以來年に月に増加し一千八百七十一年の調査に輸入の高は八億八千〇十二萬六千八百十法、輸出の高は七億五千六百六十一萬二千七百二法、同八十二年度の調査によれば輸出の高十一億九千二百三十萬法、輸入の高は十三億三千二百五十萬法なり而して輸入は麥、木綿を第一とし凡そ毎年一億七千五百萬法輸出は生糸、絹、酒、橄欖油、を第一とし毎年

平均一億百萬法なり而して商船の数は千八百八十一年の調査に汽船百七十六艘、此噸數九萬三千六百九十八噸、帆船七千六百三十九艘、噸數八十九萬五千三百五十九噸、水夫十七萬六千三百三十五人なり、右の如く輸出と入相共に年を逐ふて増加するは抑も當政府統一以來人口次第に増殖し國內益繁盛に赴くを知るへし然れとも尙ほ輸入の額は輸出の額に超過す蓋し統一の治日尙ほ淺く舊弊未だ全く除かず從て製造物産は外國と競争するを得るの度に達せざるによるるへし然れとも物産漸を以て増殖し製作日を逐ふて精工に赴く故に輸出入の差違も亦從て減少し將來果して反對の盛況を現はすに至るは識者の疑を容れざる所なり○貨幣及び度量衡は佛國と制を同ふす但し唱へを異にするのみ紙幣は猶各都府に舊紙幣を用て混雜を免れず○郵便は千八百八十二年の調査に全國郵便局の數三千三百二十八ヶ所一ヶ年間書狀取扱高一億六千五百八

十四萬二千九百四十四印刷物一億五千五百二十一萬八千七百五十四貨幣三百七十九萬二千四百十八にして其收稅額は二千八百萬法其費額は二千四百萬法にして純益を得ること四百萬法なりと云ふ○電信は同年度の調査に局數千六百三十三ヶ所電線程二萬六千八百八十キロメートル一キロメートルは我が曲尺三千尺電線の長さ八萬九千五百五十キロメートル一年間通信取扱高七百萬通信料千二百萬法費額八百萬法にして純益を得ること四百萬法なりと云ふ○鐵道は千八百八十二年中に於ては全國線路の長さ八千八百キロメートルなりしか現今は又頗る延長に及び政府は全國縱橫鐵路の便を満足せしめんか爲め新令を發し向ふ二十ヶ年に於て全國必要なる鐵道線路を架設せんことを布告せり舊時は政府の許可を得て私立會社の專有なりしか近時に至りては概ね政府に於て之れを買上げ而して再び會社に貸與し其收益の幾分を政府に收納することとはなりた

り而して新設の鐵道線は多くは一部分は政府一部分は縣一部分は區より架設に係る且つ政府は、メテラネヲ、アリトリヤテコの兩大會社に渡し該會社に於て惣ての事務運轉等を取扱ことになしたり全國鐵路架設の元價は二十六億千六百七十三萬七千七百九十四法而して千八百八十二年の出納表に依れば收額一億八千萬法にして費用は一億五千萬法純益を得ること三千萬法なりと云ふ○教育は當政府統一の後銳意力を盡し僧尼に屬する庵室の財産を國庫に没入し之れを以て學費に供し學政を擴張す千八百六十年爾來全國に於て三十三箇の大模範學校を開き且つ七千五百三十三の小學校に更に八千二百七十六校を増加し大に教育を獎勵したり千八百八十二年の表によれば學校教員四萬一千人凡そ半數男生徒百〇四萬八千人女生徒八十五萬三千四百七十九人此等の學校費毎年三千一百萬法を要すと此外尙ほ七千四百二十二の私立小學校あり之

れに屬する教師男七千四百二十二人女四千四百四十四人其生徒は男六萬三千人女九萬二千二百二十八人なり又夜學校の設は一萬一千六百十三ヶ所一萬千二百九十一校男生徒に屬すあり其生徒の數は男四十三萬九千六百二十四人女一萬六千〇六十三人あり全國に大學校二十二ヶ所中學校二百ヶ所あり教育の道は悉く文部省に管するに非ず假令は商法學農學上級變則中學校の三校は農商省に屬せるか如し小學校は全く政府の管理を離れ其地の區務に屬す然れとも教育法及び學則等は悉皆文部省の規定に順ふを法とす小學の教育は國法に於て必らず受けざる可らざるものとし違反者には罰金を償はしむ但し極貧の兒に至りては又寛容する所あり○宗教は羅馬カトリック舊教を以て國教となすと雖も法皇政權を褫奪せられし以來渾て政府の管理に屬し而して國內に宗教の自由を許す然れとも他宗の信者は國內稀にあるのみ千八百七十一年伊國人口

藏司法兼教部陸軍海軍農商務文部工部の諸省とす國王の身體は神聖にして侵す可らざるものとす○立法の權は國王と上下議員に屬す上院議員は定員なし現今二百五十人國王の特權に依て之れを命し終身官とす年齢二十一歳以上の親王其他高官學識有功及び毎年三千法六百圓 收税の者各年齢四十歳以上被選の權を有す下院は千八百八十二年の法律に依て毎年二十法四圓以上を收税し文字を讀み得る年齢二十一年以上の者投票する權あり選舉區は全國を百三十五に分つ而して各區中又若干の區分あり選舉は普通法にして年齢三十歳に滿ち成規に觸れざるもの當選の權を有す總議員五百八十八人僧侶及び政府より俸給を受けるものは議員たるを得ず陸海軍士官諸省卿輔總て顯官は議員たるを得ると雖も議員五分一の數に超過するときは議員たるを得ず上下議員は俸給を受けずと雖も版圖内鐵道及び汽船は無料にて自由に旅行することを得るの成規たり議員の年限は

五ヶ年を一期とす然れとも國王は時として之れを解散することあり而して又四ヶ月間に新選議員を招集し開會するの法規とせり○政黨は左右兩黨あり現時の政府は則ち左黨の組織たり抑も左黨政府を掌握せし以來國民の爲め大に心力を盡し諸税を減省し其他民生に利益を與へしこと尠からず就中紙幣金貨の交換其平均を得せしむる等最も當政府の大業にして國民の幸福は論を俟たず歐洲一般之れを稱賛せり宰相デフレチス氏は年既に七旬を過ぎ尙ほ矍鑠として事務を執る當時伊國中恐くは該氏の右に出るものなかるへし○國內を六十九縣に分ち従前の境界に従ひ之れを十部に區別す即ち撒丁朗罷地、エミリヤ、威尼斯、ラムブリア、多加納、羅馬那、不兒細、々々里島、撒丁島、是れなり都府人口一萬以上のもの百三十九ヶ所十萬以上の都會九ヶ所あり即ち那不兒四十六萬三千、羅馬十二萬七千、都林二十二萬六千、米蘭二十一萬四、巴勒摩二十萬五千、熱那十三萬八千、威尼十

斯百十二萬九千二百佛羅稜〇三十九萬二千ボローニユ百十萬三千九百九十八人とす舊と撤國たりし
 ときは久しく都林に都せしか國號を改むるに至り都を佛羅稜に移し而
 して羅馬を略取するに及んで即ち該府に遷都せり〇縣の下にはコムネ、
我が一郡一區の如し即ち羅馬を一コムネとなすか如しあり縣には令を置き區及び郡には長を置く縣に
 は縣會議あり區郡には區郡會議あり以て地方の政治を組織せり〇歳入
 出は千八百六十一年王國統一の後年々出納不足を生し最高の年には六
 億千七百萬法に及ひたり而して貢税は殆んど三倍を課したれとも尙不
 足を補ふこと能はさりしか近年に至りては漸次歳入増加して大に此不
 足を減するに至れり蓋し前年來出納の不足を生したる原因は軍備擴張
 の爲めに要する所最も多きに居ると云ふ千八百八十一年の計算に依れ
 は歳入總計は十四億三千四百五十二萬二千三百五十七法而して歳出總
 額は十四億二千六百七十一萬千九百八十二法なりき則ち同年に於ては

七百八十一萬〇三百六十九法の剩餘を有せしも其後非常の要費ありて
 又往年の如く歳出入の不足を生したり〇國債の利子國債取扱費王家定
 額賞典は歳出中定備の項より支出するものとせり而して羅馬法皇毎年
 の定額三百二十二萬二千法も定備の項より支出せり然れとも前代及び
 當代の法皇皆此年俸を受るを肯せず故に目今は法皇の年俸を以て宗教
 別途の費に充用せり〇國債は當政府が全國を一統したる際昔時聯邦各
 政府の公債を悉く負擔し加ふるに鐵道電信及び海陸軍擴張の爲め大に
 多額の公債を徵集し莫大の高に及ひたり但し臨時時借の外は概して年
 々百分五の割合を以て子金を辨償するのみにして母金を償却するの期
 限あらず即ち公債母金は八十六億七千三百九萬八千七百法此子金一ヶ
 年百分の五即ち四億三千三百六十五萬四千九百三十五法雜債母金は十
 五億六十七萬五千六百法此子金百分の五即ち七千五百三萬三千七百八

十法法皇に寄送すへき母金六千四百五十萬法此子金三百二十二萬五千法臨時借は千七十五萬四千五百十四法なり即ち年々政府に於て辨償すへき子金及び臨時公債の總計は五億二千二百六十六萬八千二百二十九法なり○兵制は渾て日耳曼に模倣す陸軍は毎年二十一年以上の者六萬五千人乃至七萬五千人を徵集し常備兵となし其餘を豫備兵となす豫備兵は毎年四十日間習練し戰時之れを徵集する者とせり千八百七十三年の兵制に依て全國に十六鎮臺を置き各臺に將一員を置く常備軍は歩兵、騎兵、砲兵、病院、輜重、教授等を以て組織し總計平時十八萬二千九百三十七人馬一萬八千八百三十七頭戰時三十二萬四千八百八十三人馬三萬七千○七十二頭平常及び戰時を合せて五十萬七千八百二十人馬五萬五千九百○九頭とす而して此他に一萬五千百十人の士官あり○海軍は千八百八十一年の終りに於て汽艦八十八艘大砲六百八十四門を有せり其内甲

鐵艦十八艘馬力四萬六千五百五十大砲百二十八門螺旋機械汽艦三十八艘馬力一萬二千二百五十六大砲四百三十六門外車の汽艦三十二艘馬力六千八百十大砲百十三門なり就中千八百七十六年及び同七十七年に造作したるトゥリヲイ號及びダンドロイ號の兩艦は最も有名なる完全の軍艦にしてアムストロングの製にて百噸の大砲四門を備へたり右諸艦に屬する將校夫卒は水師提督一人副提督一人少將十人艦長八十三人士官千四百七十六人水兵二聯隊兵卒二千七百人水夫一萬千二百人器械方及び職工火夫六百六十人なり○抑も伊國は統一爾來首として軍備の擴張に銳意なり夫れか爲めに大に公債を募集し貢税を増加するに至る故に此國陸海軍制の教育は他の人民一般の教育よりも著く進歩の効を現したりと云ふ○救恤の法は甚だ多しとす其聞く處の概略を此に記載せんとす即ち乳母院、棄兒院、產婦養育院、小兒乳養院、育兒院、施仁學校、學舍、工舍、

女子結婚の支度及び土産の費給費學生貧院病院人民救助老人院葬式施費等とす蓋し此救助方法は各自財産を有する者にして其財産なる者は則ち有志の人死に際し寄送せし金或は慈仁者より寄附せし金員にて成り立ちし者なり而して其財産の高は六億法に及ぶ但し學校病院養育院貧院獨兒院等は此財産に加はらずして年々區縣會より協力救助すと云へり○王家の歳俸は國王の歳俸一千五百二十五萬法、王の弟ヂエツクドタヌス公三十萬法、王の甥ヂエツクドトーマス、ゼノワ公二十萬法、大賓接待費等十萬法而して國王版圖内の州郡を旅行し若くは建築營繕等格別の費用は別途國庫より支辨する者とせり○王家私有の財産は則ち諸宮殿莊園邑園等なり此宮殿及び莊園は昔時伊國中七大守ありて七區に分離せしか故に全國中宮園の數頗る多く且つ其費を要する最も夥く然れとも皆王家の定額金より辨償せざるを得ず加之宮殿は華美の裝飾を

なすのみならず先王ビクトールエマニエールの時には諸厩に二千鞍の馬を飼養せり然るに當王ウンベルトに至り經濟上より大に之れを減して八百馬を飼養せり故に今日に至りては定額金會計上大なる差違あるへし○國王ウンベルト第一世は前王ビクトールエマニエール第二世の長子にして千八百四十四年三月十四日生誕す母は奧國の公主なり千八百七十八年一月九日前王崩し王乃ち位に即く皇后はマルガレット公那先千八百五十一年十一月二十日に生誕し千八百六十八年四月二十公那先日結婚す皇太子ナールブルビクトールエマニエールは千八百六十九年十一月十一日生誕せり其他親王は此に略す○抑も當王室サボワ家の世系を温ぬるに出處分明ならずと雖も或る史家の説によれば日耳曼諸侯中の一なるコント名ベルソワルドを以て始祖とすベルソワルドは千年代亞爾伯山の西モンブラン山レモン湖の間に家居し千百十一年其子孫羅馬法

皇の貴族に列し千三百八十三年子孫の爲め家訓を嚴定し其族を強盛にし遂にニイスの地を領するに至りたり千四百十六年伯サボワール侯チユツク侯と稱し千四百十八年ビシモン辟門洲を領す千七百十三年細々里島を領し始て王號を立つ千七百二十年該島を撒丁島と交換し撒丁王と稱す千八百十五年の和陸維納に於て熱那及び近接の地を併屬せり千八百四十九年前王ビクトールエマニユール父王の讓を受け王位に即く千八百五十九年七月十一日ピラフランカの條約佛、埃、伊の和陸假條約及び千八百五十九年十一月十日ズリークの平和同上本條約に依て西朗羅地及びバルマ、モンデナの侯國を擧て領地となし且つ羅馬法皇の領土を分領するに至れり千八百六十一年三月十七日都林のガリヤン宮殿に於て伊太利各州の代議士を徵集し國王ビクトールエマニユール二世全國代議士立列の場に臨み式を行ふ場中國王を賞賛すること數回にして後ち伊太利第一の

國王と尊稱す此に於て伊太利は辟門、熱那、撒丁、朗罷地、巴勤摩、ブンザンス、モテナ、多加納、羅馬、マルシユロンブリヤ、那不兒及び細々里諸州を統一し都林府を改て伊太利全國の都府となせり千八百六十六年八月二十三日ブラグーの和睦以、埃兩國に依て朗罷地の殘土及び威尼斯を併領す其後法皇の領土より佛國の兵を退けて伊國の兵を屯在せしむ千八百七十年九月十五日前王ビクトールエマニユール部下の兵をして羅馬府に入らしむ九月二十日大將カトルナ部下を引卒して羅馬城門ポルトビヤに向ひ法皇の兵と戦を交へ勝に乗して城内に入る市民伊兵の入るを見て箠食壺漿して軍を迎え人民市街に群集して歡呼の聲湧くか如し同年十月二日羅馬國民を徵集し投票を以て從否を定む人民伊王に服從するを望むもの最も多數なるを以て遂に羅馬を伊國の版圖に入れ其所有物を收む法皇則ち羅馬の宮殿を退去しプチカン宮に移轉す而して諸國カトリツ

ク教會に布告するに伊太利國の己れをヅチカンに幽閉せるを以てし各國に傳檄して援を求むれとも皆因循事に托して至らす千八百七十一年二月三日伊國政府より布告して曰く此府は元來伊國の首都なるを以て復して所有となすと同年三月國會下院に於て政府より法皇を處するの規を定む其要領は法皇の身體は犯す可らざるものとす宗旨上に關する一切の事は法皇の執行する所にしてヅチカン宮殿及び法皇に屬する諸寺所有地は法皇の所領とする等の事件なり千八百七十一年七月一日ピクトールエマニエール八千の親兵を率ひて羅馬に入る府民爲めに大祭典を擧げて國王の入府を賀す國王入府の式終りて直に法皇の宮殿たりしキユイナール宮に入り乃ち公布すらく伊太利政府は改て羅馬府に移轉す自今羅馬府は全伊太利國の首府たり故に官民協力して始終其都府を勵す可らざるものとすと此に於て伊太利は始て獨立王國にして

歐洲大國の地位を保有せり千八百七十八年一月九日前王病を以て羅馬府に崩す人民哀惜父母を喪ふか如し皇太子即日王位に即く之れを第一世ウンベルトと云ふ則ち當王なり後ち八ヶ月を経て王皇后と俱に國中を巡幸す那不兒に於て一刺客あり突然劍を抜て王を犯さんとす事成らす忽ち縛に就く此賊は則ち社會黨の一人なり王皇后と俱に細々里島に巡幸す時に海上風波猛烈渡航頗る危険なるか故に暫く航海の猶豫を進むるものあり皇后雄決暴風怒濤を冒し直ちに渡航せり元來該島は強賊潜伏し人心瘳惡にして甚た制御し難く時人或は今回の巡幸を懼るゝものあり然るに皇后の勇進細々里全島を壓伏す故に一點の支障なきのみならず島民老弱相携へ歡喜して王の車駕を奉迎す此に於て全島の巡覽を終て安全羅馬に還幸せられたり王及び皇后共人民に遇する甚た厚く平常馬車に駕して府下を巡行せらるゝとき途上敬禮をなす者ある毎に

悉く會釋せらる國民其徳に服し甚た忠愛尊敬せり

○羅馬府は北緯四十一度五十三分より五十四分の間に位し經度十二度二十八分より二十分の間にあり人口二十八萬五千人千八百七十五年に二十法皇政治の終りには二十一萬六千人なり土地高低にして噴火の氣を含蓄すしか當政府統一以來人口次第に増殖せり 土深さ六七メートル出水のときは十メートル以上にあふ急流にして河水常に清潔ならず府の東南は惣て平地にして南方七十キロメートルを離れてアルパノ山嶺高く聳ゆ此峯より山脈起伏し遙に此府の野を圍む河北は岡巒連亘して外障をなし平野又其背に開け遠くアルパノの山脈と相環接す其形勢昔時廣大を極めし盛都たるを想像するに足れり城郭は羅馬帝フォーレンリヤンの創起に係りスループス帝の時代に落成せるものにして紀元二百七十年より七十六年代の頃に當れり周回二十二キロメートル高さ殆ん

と十七メートル十二の城門を起す就中主要とする處はポルトジエポール門にして即ちコルソ街より直線東北に通する長道なり十二門皆關吏を置き收税甚た嚴なり○此府は古羅馬の時紀元前七百五十三年今より二千六百年前羅馬創業の主ロムルス始て都を此地に定めし以來千二百餘年間常に羅馬國の都城にして版圖歐弗細に亘り當時宇内に無比なる盛大繁庶を極めしは歴史上甚た著名にして皆人の聞知する所なり其後相繼き羅馬法皇の都となり全洲のカトリック教の本宗にして更に千餘年を連續せり故に古跡名勝頗る多く建築彫刻油繪等前代有名なるもの多く存在して他に比類なき名都たり然れとも古來數度の兵燹に罹り稍や其位置も變移し且つ次第に縮小し人口も亦昔日に比すれば凡そ五分の一に減し街衢蜿蜒して概ね清潔ならず將た屋造大なれとも多くは古代の建築にして壯麗を欠く府の邊隅に至れば屋陋にして街荒れ飛塵目を掩

ひ臭氣鼻を突く且つ宗教政治の餘弊により府の内外丐兒多く或は徒手錢を乞ひ或は花を強販し行路を妨ぐるに至る併し府街の内コルソ及びビヤナシヨナル街の如きは極めて峻美而してナシヨナル街は當政府此地に遷都せし以來築造したる新街にして道路幅廣く人道馬車道を區別し左右に樹木を列栽し樹間に瓦斯燈を連設し發石平かにして惣て清潔なり此街は大道直線數十町屋造も亦新清宏麗にして觀望甚だ好し此街東に盡くる處四達の廣域を存し傍らに公苑を開き樹木草花を栽へ噴水を飛し頗る風致をなす正面に停車場の巨館あり玻璃を以て屋宇を包み前面には廣遠を開き夜は場内に電氣燈を點す場外は瓦斯燈連珠をなし府中最美の街たり此廣街の後背より停車場の背面は惣て廣坦にして近時陸續家屋を新築し日に月に戸口増殖す屋造皆宏麗を競ふ○抑も千八百七十年當政府の羅馬を領取せし以來宗教政治の餘習を受け百事

改革を促し善を擧げ弊を除き銳意治を圖り千八百七十九年に於ては府内新に百五十九の學校を設け男女教師五百三十一人生徒二萬二千四百四十三人を教育す目今府中に歩兵六聯隊親兵二聯隊撤兵一聯隊騎兵一聯隊砲兵一大隊工兵一大隊を置き且つ憲兵若干を設置して府内の取締を嚴にす而して奕世法皇政治の下に伏し弊習累積の久き人民懶惰の氣風を免れざるのみならず前代の百弊未だ全く洗除するに至らずと雖も今日を以て前年に比すれば行政教育共に面目を改め市街の觀望も亦大に前日に異るものゝ如し之れに依て之れを見れば將來益繁盛を致し以往數年の後は又幾層盛大の觀を呈するに至るへし府内最も名譽の建築はグチカン法皇の宮殿宮聖サンピエール彼得寺及びサントアンゼロ城の如きを第一とし其他宏麗なる寺院等多く而して寺院の數は無慮三百六十餘ヶ寺にして概ね皆建築裝飾の美を極む又最も著名なる格獸觀セロの殘壁該撤宮及

ひ集議院の遺礎カラカ帝の浴館水道殘礎の如き皆數千年前の遺跡にして昔時盛都の狀況歴々として證すへし又府の周圍は廣闊の平野にして丘陵遠近に起伏し處々に古代の建築片存し頗る千古の情に堪へざるもの多し○羅馬法皇はカトリック宗に於て至貴至尊の位置に在て宗教中責を受けざるの管理者たり而してカルデノール官僧僧を置きて宗教の諸務に當らしむ其宮内は私有財産及ひ地球上にある處の同宗信者より寄献物を以て保持す先年當政府か其政權及ひ領地を沒收せし以來法律を以て年々若干萬法の金額を補助金として寄送せり然れとも法皇は敢て之れを受納せしことなし故に目今は法皇の年俸を以て宗教上別途の費に補充せり法皇の選舉は古昔は羅馬教區の僧侶と人民との投票に依て定めたりしか其後カルデノールの投票に依て之れを立つることゝなりたり然るに第十一紀中千一年より千百年迄を云ふニコラ第二世の發議によりて舊に

復し而して投票中少くとも三分の二以上を有するものに非れば之れに任すること能はざるの法となせり此選舉法に因ては屢々爭論を生し千二百二十五年法皇グレゴリー第九世の時に至り遂に又舊に復し僧侶のみの投票に因ることゝはなりたり則ち現今施行の選舉式は皆カルデノールの記名投票にして票札を禮拜堂中の机上に置き各進んで祈禱をなしカルデノール中三分の二以上に達する應撰者なき時は投票中高點の者に當る法皇の政權を取りし原は紀元七百五十五年に始まる蓋し佛國比比諾王ベビノ法皇ステブノ第三世に與ふるにラベンナの地を以てし續て佛帝查理曼シャルルマン専ら法皇を尊信し土地を寄附し寺領となせしより次第に政權を得居然國王たるか如きに至れり中古にありては其威權最も重く屢々日耳曼諸帝と戰爭をなし教法の本宗たるを以て列國の王侯を伏從せしめ彼の日耳曼帝顯理ハインリッヒ第四世の如き法皇グレゴリー第七世に抗して破

門の罰を受け教會より放逐せられ三日三夜宮門の雪裏に立ち號泣罪を謝するに至る當時教門威權の盛んなる押て知るへし而して極盛の餘弊害從て生し民膏を榨克し民生を聊んせず怨讟積んで一千五百年の初に至りプロテスタント教新の説起り一千五百五十年以來舊新教の大騒亂となり其後幾多の世變に依り法皇の威權年に月に衰頽に赴き一千八百六十年に至りては羅馬を除くの外伊太利全國當王家一統の治に歸し其後一千八百七十年羅馬も亦當政府の所有となり同年十月九日に至り法皇は遂に政權に關らず只宗門を管理するのみの權を有することとはなりたり現今の法皇レヲ一十三世は千八百十年伊太利のカルビネト一に生れ千八百三十七年法皇グレゴリ一十六世の書記官となり次第に累進して千八百五十三年十二月カルデノールの官に昇り千八百七十八年二月二十一日ビエー第九世に續て法皇に任せり則第二百五十八代の法皇

なり法皇の政權を取りしは九十五代ステアノ一三世より現
今法皇レヲ一十三世迄惣て百六十四代の法皇を経たり○當府下にある寺院の數は最も夥く大小寺院惣て三百六十五ヶ寺ありて毎寺院一ヶ年に一回の祭禮を執行す故に一日として祭禮あらさるの日なし僧侶の員も亦甚た多く而して法皇宮の外諸局諸教院及び宣教師の學校等を設け且つ各寺宗旨上の用務を處理する僧侶も亦多數ありて平日門外一步を出れば則ち僧侶の隊を組みて往來するを見る服は赤黒茶青等の各色あり帽も亦從て一樣ならず公園地其他遊歩の地は日として僧跡の絶ゆること稀なり以て昔日の情況を想像すへし○氣候は冬溫暖にして夏は炎酷なり雨は秋冬に多くして春夏に少く冬候は寒地より避寒に來遊するもの多く夏時は之れに反し土人中等以上多くは近村或は外國に暑を避く故に溫和の候は市街行人肩を摩し市肆も亦殊更に裝飾を美麗にす當府の暑熱は殊に酷烈にして市街屋壁反射燒か如し夜半と雖も熱炎消しかた

く晝夜一徹只未明に時として微涼を覺ふのみ但し温度の昇ること我が東京と大差あるに非らされとも我が國は一般に時々雨來て炎熱を洗ふことあれとも當府の如きは否らす夏時は降雨甚た乏くして暑に間斷なし故に最も堪えかたし然り而して冬候より春季に至れば梅花櫻花我が國とは稍や異なり其他百種の草花娟々として相競ひ芬々として香を放つ花園に徐歩し野外に散驅す天色清朗春風嫋々或は芳花を摘み或は古跡を探る逍遙終日敢て倦むことなし抑も歐洲の遊園にして世界の博物場と稱するも亦過言にあらざるへし

五日 (晴土曜)

午後三時田中書記官を從へ外務省に出頭し外務卿輔に面會す暫く談話して歸る午後六時外務卿輔等公使館に訪問す○當國王陛下威尼斯に行在せらるゝにより謁見として本夜十一時此地を發し同府に向ふ田中書

記官隨行す但し妻は羅馬公使館に留守せり

六日 (晴日曜)

午後四時威尼斯に着し直ちに旅亭グランドホテル、ニに投すは後ちに遷る

七日 (晴月曜)

午後二時王宮より二艘の艇を以て宮内の官吏大禮服を着し來り迎ふ該官誘導して王宮に至り先づ國王ウンベルト第一世陛下に謁見し國書を捧呈す夫れより皇后マルガレット陛下に謁見す兩陛下接遇優握拜話數刻に及び而して後退殿す同夜七時宮殿に於て兩陛下より晚餐を賜るにより田中書記官及び領事ベルセー氏と同く參殿す接伴の人々は地方官及び陸海軍武官等併せて四十餘名國王陛下は自國の大勳位シヤセンソ及ひ我が菊花大授章を佩用せられ予を待つに殊遇を以てし皇后陛下の右座に着かしめ陪食中兩陛下より屢々尊話あり終始待遇を蒙る甚た厚し

十時拜辭して退殿す○同夜有栖川親王殿下より電報あるにより十一時
威尼斯を發し米蘭府に向ふ○予不在中有栖川親王殿下那不見より羅馬
に到着せらるゝにより午後二時市來書記生停車場に奉迎す同七時殿下
隨行の官吏を従へ公使館に來臨せらる妻迎へて茶菓を呈す暫時休憩あ
りて立座せらる同夜妻は殿下より招喚により殿下の旅館王宮内にに參殿す
晚餐に陪食し九時退殿せり

八日 (晴火曜)

午前七時米蘭府に達し旅亭ホテル、ミにに投して有栖川親王殿下の着府を
待つ米蘭府風土の記
は後ちに譲る

九日 (晴水曜)

午前六時有栖川親王殿下着府により停車場に奉迎す同場には先年我が
國に航遊せられたる皇族熱那公其他式部權頭米蘭府知事及び區長鎮臺

指令長官以下數名の士官等出迎し樂隊我が朝の樂を奏す熱那公自ら殿
下を馬車に誘引し參謀官及び予齋藤書記生陪乘し同處離宮に着せらる
午前熱那公の誘導にて市街巡覽あり予又隨行す午後四時國王陛下殊に
モンザより駕を枉げ殿下を來訪せらる殿下自から階上に迎へらる予其
他隨行員悉く供奉す一室に於て面晤あり而して後互相拜謁の式畢り國
王は再ひモンザに還幸せられたり夫れより殿下には熱那公と共に市街
巡覽あり晚餐後ガल्ली街に於て點火イルミネーションの舉あり蓋し此舉は
府内人民殿下を祝するか爲めなり數萬の瓦斯全街に満ち白晝を欺く人
民萬歳の聲湧か如し式畢て歸館あり道路往反共に衆庶群をなし祝聲絶
へす

十日 (晴木曜)

午前十一時有栖川親王殿下別仕立の汽車にて米蘭を出發モンザに向は

せらる熱那公同車地方官鎮臺指令長官宮内官吏及び予書記官生と共に
 隨行す十一時三十分モンザに達す停車場には國王陛下出迎せられ王宮
 付屬の文武官陪從す汽車場に達するや樂隊樂を奏す國王殿下と握手の
 禮あり而して陛下自ら同處地方官及び裁判官等を殿下に引見せしめ畢
 て殿下を馬車に誘導し熱那公同車にて離宮に到着せらる予等皆隨從し
 て離宮に至る宮庭には樂隊樂を奏す陛下先導して宮中の一室に伴ひ禮
 畢て文武百官順次殿下に謁見す次に陛下は他の室に於て殿下の隨行員
 及び予等に面謁を賜ひ談話懇到暫くありて陛下殿下を食堂に伴ひ朝餐
 の饗あり陛下の祝言殿下の答詞等あり陪食するもの四十餘名食事中奏
 樂以て興を副ふ午後二時より駕して園を逍遙せらる陛下殿下及び熱
 那公車を共にし陪席諸員悉く乗車陸續として隨從す凡そ一時間餘を經
 て直ちに停車場に至る三時半殿下陛下に告別し米蘭府に向て發車せら

る暫時にして米蘭府に着車夜九時曲馬場へ隨行し深更に及んで歸寓す
 十一日 (晴金曜)

本日は有栖川親王殿下此地に滞留せらる

十二日 (晴土曜)

午前五時有栖川親王殿下此地を發し瑞西國に向はせらる熱那公及び地
 方官等停車場に送別せり但し送別の式は出迎の式と異なることなし予
 は書記官と共にコンム驛瑞西國に近き驛處迄奉送し午後一時米蘭に歸る○同夜十
 時米蘭を發し歸途に就く

十三日 (晴日曜)

午後四時羅馬に達し直ちに駕して歸館す

十四日 (晴月曜)

午後二時外務卿を問ふ且つ赴任披露の爲め各國大使公使を訪問す

十五日 (晴火曜)

午後六時駕して公園地ルビンチヨ、ジャ及ひ市街を逍遙す○ピンチヨジャ
 ルダンナボレンは當府公園の一にして最良なる遊歩場なり此地は舊と島地なり
 しを佛帝拿破侖一世の此國を所領せしとき造築して公園となせり千八
 百四十九年の頃より伊國に於て有名なる人々の石像を此内に設立す此
 園の位地は府の東北に當れる丘陵にして府の西北より東南に面し背後
 は他の園林を以て環繞す空氣恒に新鮮にして最も眺望に富み此に至れ
 は全街殆んど一目の中ありモンテマリヨ及ひメニリーニの岡陵は府
 の西北を繞圍し岡陵盡る處南方遙にアルバノの曠原を望む聖彼得寺の
 圓塔は連薨の外に突起し巍然として雲表に聳ゆ其他サントアンゼロ城
 及ひカピートル等巨大の建築處々に起り三百有餘大小寺院の塔樓各處
 に林立す苑内を逍遙すれば綠樹碧草白砂塵を拂ふ中央に砌を造り庭徑

曲折青草の中に珍花奇木を栽え春夏の候は百花爛熳として香を放ち新
 綠青々として清陰をなす周圍には廣道を通して駕して逍遙すへく又處
 々に湯を設けて休憩に便にす石像を散立し噴水を跳飛し又巨大の水漏
 を設く羅馬は總て引水に自由を得て市中至る處噴水の設ありて皆種々の彫刻物を以て
風致裝飾を施す此苑内にも水を引くこと最も自在にして噴水數ヶ所に騰跳し且
つ園丁は常に水管を携て庭内に水を注ぐこと冬候と雖も又絶ゆることなし此れは羅馬第一の佳苑にして早朝より
 開て黄昏に閉つ或は駕し或は散歩し遊人終日絶ゆることなし一周二回
 樂隊の奏樂あり其日及ひ日曜日には此に來て快樂を取るもの殊に多し
 酒店及ひ體操場玉突場等も又具備せり

十六日 (晴水曜)

本日も亦夕刻駕して公園を逍遙す以後通常公園地及ひ市街等の逍遙は記事を略す

十七日 (晴木曜)

十八日 (晴金曜)

十九日 (晴土曜)

夕刻駕してホルゲーゼ園に逍遙す此園はピンチヨ公園の東北に隣し廣き公園に數倍す此園は僧のホルゲーゼと云へる人法皇の貴族にしてペウロ五世の甥なりの造りし處にして今尙ほホルゲーゼ氏の所有たり一周に四五日午後より之れを開き衆庶の縦遊を許す周回に數條の廣道を通し馬車にて巡遊すへし園内には老樹巨幹枝を接え綠陰空を蔽ふ處々に噴水を飛し彫像を設置す或は丘陵或は草原恰も山野に逍遙するか如し日曜日或は祭日等の如きは貴紳皆車を馳て來遊す車は華麗を競ひ馬は驕駿を争ひ揚々陸續として巡行す散歩するものも亦多し此境内に同氏の彫刻博物館あり毎土曜日午後之れを開く後日一覽を経て記載すへし

二十日 (晴日曜)

二十一日 (晴月曜)

午後四時駕してバンプヒリー園に至る此園の位地は郭外西方の岡陵に依りて廣闊なる塲處を占有す法皇イノツサン十世の甥なりシカミーユバンプヒリー氏の造る處なり今はフランスドリヤなる人之れを所持せりと云ふ府内に於て最も全備したる廣大の園なり一周兩度馬車の縦遊を許す當日はホルゲーゼ園と同く馬車或は散歩して來遊するもの甚た多し此園に行くや外郭を出れば路漸く高く廣道曲折にして中間に一の公園あり青草芳花庭徑最も清し此に至れば全府の市街眼下にあり南は平野天に連り渺茫として際涯なく羅馬の全景を縦觀し眺望佳絶なり進行すること數十間にして一寺院あり樓門の下に噴水を設け瀑流四條滔々として白布の如く發池に落ち來り深淵をなす此前面は廣達にして石欄を回らし眺望又好し夫れより進んで園内に入れば丘陵伏起し草原谿谷は老松巨木處々に鬱茂す曲池あり多く水禽を放ち又處々に牛羊

を放牧す惣て天然の風致を存し幽邃閑雅なり園内中央に小砌を造り花紋をなし白砂を布く果樹花木珍草芳花培養最も至る下段には廣庭を開き老樹巨幹蔭鬱として枝を垂る噴水は數ヶ處に噴飛し裝ふに奇石彫像を以てし専ら風雅の趣をなす又躑躅椿木蓮花等を多く培養し風致渾て我が國の庭園に彷彿たり此園内に一の樓閣を起す石階數十段を輪回して屋上に昇れば四方に石欄を回らし彫像を立つ遠望又尤も好し

二十二日 (晴火曜)

二十三日 (晴水曜)

二十四日 (晴木曜)

二十五日 (晴金曜)

二十六日 (晴夜雷雨土曜)

二十七日 (晴日曜)

- 二十八日 (晴月曜)
- 二十九日 (晴火曜)
- 三十日 (晴水曜)
- 三十一日 (晴木曜)
- 九月一日 (晴金曜)
- 二日 (晴土曜)
- 三日 (晴日曜)
- 四日 (晴月曜)
- 五日 (晴火曜)
- 六日 (晴水曜)
- 七日 (晴木曜)
- 八日 (晴金曜)

九日 (晴土曜)

十日 (晴日曜)

十一日 (晴夜雷雨月曜)

十二日 (晴夜雷雨火曜)

昨夜の雷雨にて今朝稍や冷氣を覺ふ午後暑氣酷たし五時駕して聖彼得寺に至り寺内を一見す○聖彼得寺はカトリック教の本山にして羅馬法皇の居城に屬する寺なり其位地はチーブル河を隔て府の西なる岡麓にあり紀元三百二十六年羅馬コンスタンチー帝の時代法皇サンシルベスト一世の要求に依りて同帝の建設せる一大寺院なり此處は則ち耶蘇の高弟たりし聖彼得の磔刑に處せられし處なり本寺創設後年を逐て衰荒に赴きしを千四百五十六年法皇ニコラス五世之れを再營し千六百二十六年十一月十八日に於て法皇ウルバン八世再ひコンサクレの選座を行

へり此建築は惣て數百年を要し建築師も亦數百人の手を経て後ち落成せしものなり之れに要する費額は千七百年の終に於ては二十三億五千萬法に上れり此寺は東を正面とし左右より白石の圓柱を以て高廊を半圓規に回らし前に廣庭を擁し噴水左右に高く翻飛す中央に尖塔を建つ寺の造營は高大精美世界第一の莊麗を極めたるものにて其面積二萬千百九十二メートル四方前面の廣さ百十二メートル餘高さ四十四メートル餘其上に五メートルの彫刻像七十箇を羅列し規模極めて宏美なり正面の樓上に廣場を設け昔時は法皇此處に出て前面の發庭に集まりし衆庶に説教をなせし處なり堂内にある石柱の數惣て七百四十八本其美なるは花藥石花崗石等の玲瓏透瑩なる美質の完石を用ひ其高きは二三十メートルに上るもの二百四五本あり以て堂宇を構結す檐上壁間に石像を安し裝飾をなす殆んど四百に充つ窓を開くこと二百九十二ヶ所燈を

釣下する百四十二箇あり堂内兩廊の間に畫額を掛け壁間には彫刻あり上宇には井形をなし花形或は藻紋を刻し金彩を塗る每區の工事同からすして各伎倆を盡せり堂の正壇の上には圓塔を建設す堂内より仰き見れば金色彩光目を眩輝す此直下に聖彼得の遺骸を藏す前にヂヨンハクチスト禮拜の像あり本堂正面の上窓に玻璃より光を透して鳩の飛ひ來る圖を畫羅す即ち基督カトリック教の故事なり又此堂内に法皇の像を安置す惣て法皇即位より二十五年以上を経れば生なから神として其像を此本堂に掲ぐるを古來の遺法となせり當寺の圓塔は最も巨大豪華なるものにて屋上より高さ九十四メートル周圍百九十二メートル此塔に上れば羅馬遠近の景色一目の中に集り府の全街は正に脚下にあり凡そ遠近の山嶺を隔つるの外は行く處として此塔の眼に觸れさるなく數里を隔て尙ほ雲外に屹立するを見る實に希世の壯觀なり此寺の北はグチカン宮即ち

法皇の宮殿なり山岡によりて高樓層閣を起し僧房凡そ一萬七千戸に及ぶ昔日本宗旺盛の時に際し其威權によりて歐洲全土の財賂を收め以て此寺院宮殿を莊嚴にす奢靡奇巧を極めたるものと云へし時に詩二首を得たり

壯哉羅馬法皇宮畫閣崢嶸入碧空永有傳燈照三界不揮禪杖撻英雄

石像列堂歷世賢刑餘遺教到今傳巍々廊外晴看雨即是噴泉翻碧天

十三日 (晴夕雷雨)

十四日 (晴木曜)

十五日 (雨金曜)

十六日 (雨土曜)

十七日 (雨日曜)

十八日 (雨月曜)

十九日 (晴火曜)

二十日 (晴水曜)

二十一日 (晴木曜)

二十二日 (晴金曜)

二十三日 (晴土曜)

二十四日 (晴日曜)

午後一時駕してサンポール寺及びサンセバスチャン寺のカタコンブ、バラタン昔時の王宮遺跡のある處即ち撒該等も此の内に住居せり等を巡覽す。○サンポール寺は府の南郭外の地にあり昔羅馬コンスタンチー帝此處に一小寺院を築造し其後紀元千三百八十八年法皇バレンチニヤン二世更に此寺を建築す千八百二十三年七月火災に罹り其後法皇レヲン十二世之れを再建し法皇ビエー九世千八百五十四年に於て全く落成しコンサクレ遷座の式をなしたり。○

羅馬の寺院は概ね皆宏麗なりと雖も聖彼得寺を第一とし之れに亞くものは此サンポール寺なり。全堂に八十の石柱あり皆最良美質の有紋大理石を以て之れを造る。周壁床宇共に皆花崗石大理石等の美麗なるものを集め精工を盡したるものにて全堂至る處玲瓏として甚だ清美なり。柱上の周壁には嵌石モザイクにて紀元七百年代以來法皇歴代の像を掲げ且つ耶蘇十二門弟の大像を列せり。當寺の建築は罹災以前と異なることなしと雖も其裝飾に至りては現今よりも尙ほ一層美麗にありしと云ふ。○サンセバスチャン寺のカタコンブは同寺の地下にあり昔羅馬時代の墓所なり。深さ五メートル餘にして是れより横に隧道を穿ち地底を往く道の左右に土棚を作り又は墓室を造る。隧内は渾て暗黒にして陰濕なるか故に呼吸自から閉塞を覺ゆ。案内者に尾従し各燭を執りて行く恰も長夜の域にして闇黒咫尺を辨せず只概踐するのみ。此隧道は奥を極むること甚だ長く

凡そ十四キロメートルありと云ふ昔時の古棺其他人骨等後人掘發し持去る所となり今は只墓所の跡のみ存せり此内にグラヂアートル格獸觀にに於ても耶蘇の高弟なる聖彼得を磔刑する等同教を待つこと最も嚴酷なりしにも拘はらず人民益之れに傾くもの多く遂に此害中に隱匿して終身教を説くものあるに至る其強毅耐忍なること如此是れ此宗教の滋蔓せる淵源にして人心に感染するの深き實に偶然にあらざるを知るへし○バラタンは昔時羅馬帝宮の遺趾にして撒該の宮と稱する亦此處なり此遺跡は本日通觀を畢へさるにより記事は後日に譲るへし

二十五日 (雨月曜)

二十六日 (晴火曜)

午後五時出寓ボンテモーレを散驅す此れはポルトジニョポール街道を

直行しチーブル河橋を越て出る野外なり草原渺茫丘陵遠近に起り陵上或は斷礎の存するあり郊外廣しと雖も田圃は甚た僅少にして専ら牛羊を放牧す郭外は惣て如此而して草地皆所有主のあるありて悉く柵を結び境域をなす農家も亦遠近に點在するのみ

二十七日 (朝雷雨夕晴水曜)

二十八日 (晴木曜)

二十九日 (晴金曜)

三十日 (晴土曜)

十月一日 (晴日曜)

午後三時四十分車に駕して公使館を發し四時十分汽笛一聲那不見に向て發車す城外に出つれば平野縹渺として雲に連り夕陽車窓を射る少焉あつて半月東方の山嶺より出天色明朗銀河燦然たり十時二十分カゼル

タの王宮を望む則ち國王の別宮にして元と那不見王の建築に係るものと云ふ前面に數十の瓦斯を點し粉壁皎々半空に聳ゆ爰を過れば忽ち左面に巍然たる火山噴烟天を突て起るを見る將に知る那不見府の近きにあるを十一時那不見停車場に至り直ちに駕して旅店ロワイヤールデセツトと號すに投す新築四層の石造にして裝飾美麗器具清潔なり此旅店の眺望たるや地中海に面しポリシツプ海岸を右にし火山を左にす數萬の瓦斯燈は岸に沿ふて星列し恰も好し半月天に中して風景明媚たり誠に伊國第一の名都にして遊客の茲に輻湊する抑も故あるなり喫茶畢て刻漏殆んど一時強皆臥床に就く

二日 (晴月曜)

晨起窓を推せば天色清朗海波席の如く小艇網を投し濱涯釣を垂る空氣洞通して心氣快爽殘睡忽焉として醒む○午後二時車に駕し西に向て海

岸の街路を馳せゴロタジカーネに至る市街盡れは道路磧石なく牧童群羊を驅て途上を來往し塵埃起つて衣に充つゴロタジカーネに着するや一夫來て一行を誘き先つ一の洞穴に入らしむ足を揚て地を踏めは礫々として響きあり洞中凡そ七八十度の温氣にして處々に烟を噴く岩壁に手を接すれば熱度更に強く土石白色を帯ひて灰の如し此温氣は瘴摩窒斯に適すと云ふ蓋し吾か邦の石風呂に比すへし此處を出て五六十間を隔て洞穴あり一夫小犬を牽て先導す此洞中は窒素強く噴出し平面の地位以下に降行すれば人は十ミニュート蓄類は五ミニュートにして死すと今牽來る處の小犬を執へて洞中凡そ七八尺の奥に至らしむれば小犬忽ち息迫煩悶して視るに忍ひざるの狀あり之れを放つや直ちに洞外に走出し四足戰慄暫く苦悶して後ち故とに復す又繩布に火を點し一夫之れを携て洞中に入り以て平地以下に降せば火忽然消滅し以上にくれ

は又忽ち燃ゆ如此すること數度に及も消燃前の如く殘烟は驟然として平地線に群つて猶海面水烟の驟くか如く時を移すも尙ほ散せず火を持ちし夫も亦息を吹き汗を流して出つ此處を去り又一の洞穴に誘き一行をして皆洞中凡そ七八尺の處に佇立せしめ首を膝頭に低れ手掌を以て洞裡の氣を吸入せしむ此氣はアンモニヤにして炭酸を吸ふか如く胸部をして自から洞闊ならしむ暫く佇立するに足下より温氣上昇して爐頭に立つか如し以上三箇の洞穴皆噴氣ありて各素を異にせり蓋し此處は火山の脈絡貫通して地底に各種の氣混淆し而して爰に騰發せるなりと云ふ側らに平原あり多く羊を放てり往古は河川なりしか火氣噴烈し近邊の一村落と併せて埋没せりと云ふ洞穴の側らに一戸の農家あり小民之れに住居し看客來れば則ち之れを誘き解説して見料を取る小犬も亦看客の來る毎に洞穴に入り半死の苦惱以て彼れか職掌となせり該所を

去り歸路山腹の途上より願望すれば洞穴の所在暗淡たる氣烟半空に横はり吾か農家の肥塵を焼くか如し抑も火山の噴出甚しき時は此處の烟氣少なく否らさるときは此洞穴の噴出甚しと云ふ火山を去ること凡そ吾か六七里許にして只此處のみ如此なるは最も奇異と云へし山腹の途上に隧道あり則ちポリシツプに出る路にして予か通過せる道路の右側にあり車を下つて一見す隧口に賤夫黒質なる水晶石を販賣せり一箇求て去る又海岸の街路にも此山麓を穿ち隧道を造れり則ち前に通過せし處にして隧中瓦斯燈を點し丁數凡そ吾か一丁許人語隧中に籠つて響き囁々たり五時三十分海濱の割烹店に至り晚餐を辨す晚來遠近に燈火を點し沿岸の紅燈海に映して星列し火山の峻峯噴煙雲に連なり海面波平かにして漁舟泛々たり鮮魚珍菜村酒を酌み食間の眺望又心思を伸暢せしむるに足る餐畢て七時強駕して旅寓に歸る

三日 (晴火曜)

ボンベイ邑に往昔埋没せし都城の古跡あり一見せんか爲め午前八時二十分車に駕し東南海岸に沿ふて馳す逆旅よりボンベイ邑に至る十二英里の間凡そ三分の二は人家陸續として市街をなし縦横に馬車鐵道を布設し魚肉蔬菜諸器具雜品等を積載する驢馬牛車及び往復馬車織るか如く左に避け右に轉し動もすれは衝突せんとす以て那不兒港の繁榮をトすへし此港至る處乞兒の多きは最も煩はしく歐洲文明の瑕瑾と云へし海岸の一路汽車の往復ありと雖も求て馬車に駕せり十時四十分ボンベイ邑に至り一箇の食店に着く暫く休憩して古跡場に入る抑もボンベイ邑は那不兒を去ること十二英里にして人家甚た稀少なる一村落なり古代には人口四五萬人にも及ふ繁華の都邑たりしに紀元五十六年に火山の大脈噴裂し土灰を飛散すること甚しく殆んと三晝夜城邑忽ち灰土の

爲めに埋没し全く烏有曠原となれり是れより數百年を経て一千七百四十年代偶然のことにて地下より古き屋瓦を掘り出し甚た奇怪なるか故に尙ほ之れを掘るに倍奇跡現出し依て當時埋没せし城邑なるを探查搜尋し今に至る迄間斷なく益人をして撥堀せしむ目今三分の一強を掘出せり此日も人夫十人斗頻りに撥堀し屋壁半形の現はれしもの陸續たり此處より火山の頂上迄直徑凡そ吾か邦の一里餘なり此場内は政府より監守者數名を付し看客來れば監守誘導して實地に就き往昔の解説をなせり古跡に至るには食店の裏路より小岡を登れば關門ありて監守參觀札を付與す一人の額二法を收入す一人の監守來て予か一行を誘き石門に入る則ち一字の博物館にして地底より得たる古物を陳列す灰土の内に斃れし死屍を其儘にて灰を併せて硝子の箱に收め臺へ上せたるもの七八あり男屍多く女屍は二三に過ぎず婦人の屍一箇は伏て其後側に十

才餘なるへき女屍横に斃れたり思ふに此婦の愛娘なるへし此婦屍は指に金環を貫く一目惘然の情に堪へず其他器皿の類多く陳列したり古代の器物と雖も今と甚た異なるものなし此館を出て古代の市街に入る街道は幅廣きも漸く兩車を通するに堪ゆへし道の兩側を高くし之れを人道とす道の前面は皆發石にして其石は天然の石を用ゆ故に甚た平坦ならず車輪の跡石面に尙ほ存せり以て往昔車行の繁けかりしを徴すへし石柱瓦壁には花紋を印し人物鳥獸を彩畫す屋壁尤も厚くして窓孔甚た少なし屋室の上字は埋没の時悉く潰破せしものと見え今一も存するものなし屋内の發石多くは摸細工にして處々に其形を存す誘引者に隨ひ次第に進めは銀行裁判所集會所相場會所學校等の跡一々解説をなす裁判所には矮小の牢獄尙ほ存し屋上に一二の穴を穿ち法官此屋上より穴に覗て罪人を糺問せりと云ふ浴湯店あり往昔は吾か邦俗の如く數人共

浴せしものにて石造の浴器廣さ凡そ二三坪あり當今の如く格別に浴室を設けず衣服を脱し置く所は浴室の側らに石にて區域をなし吾か邦浴湯店の衣服棚に稍や類す只木石の異なるのみ花街あり小室を區分して各土床を設け戸上の壁には悉く姪褻の圖ありて尙ほ存せり此處は入り口に門を鎖し猥りに入を得す且つ婦人の縦覽を禁せり劇場の跡あり尤も壯大にして羅馬の格獸觀に比すへし凡そ灰土の古街を埋没せること屋上より凡そ二丈以上に及ぶ實に稀代の奇觀と云へし此場の門外に輿あり形ち香港の肩輿に彷彿たれとも肩に擔はすして前後共に兩手を垂れ提けて行く輿丁門外の路傍に立て看客に乗輿を勸む古跡場を出て食店の後岡に當り一室を設け古跡及び掘出せし諸古物の圖畫を販賣する所あり又側らに同處の土石を以て種々の小細工をなし或は襟鍔指環小刀珊瑚等下等の細工ものを販賣せり通觀畢て再ひ食店に憩ひ午餐を喫し

車に駕して歸途に就く○歸路途上海濱なる市街の内にボンベイと同時
に埋没せる市邑あり古へはコラーナと云ひしか今はレッシーナと云ふ
一千七百十一年に當り土民井を掘りしに地下より奇異のもの出るあり
怪みて掘入りしに灰土の凝結して家屋を埋包するを見る堀るに隨ふて
石階石燈等續々顯出せり此處は平地より下ること四十六尺隧道連續し
燈を持って行く處々に奇跡あり此地は火山の距離ボンベイとは甚だ近き
か故に焰土一時に壓倒せしものにて屋宇も皆潰爛して全く存するもの
なし此洞中を出て二十間余を隔て寺院の古跡あり途上より伏て之れを
見る四面の地上皆人家ありて此餘撥堀す可らす堀涯屏立して古瓦屋壁
の端片を顯出せり尙ほ此人家の地底を撥堀することを得は幾許奇觀の
現出すへきか想像に堪へざるなり一覽畢て去り六時強旅寓に歸る○夜
領事コジュエツタ來訪す田中書記官をして應接せしむ

四日 (雨水曜)

午後二時公用の爲め外務卿マンチニー氏の寓を訪ふ氏の寓はカツボジモ
ンテ宮苑中にある
四時半歸寓す

五日 (曇夜雨水曜)

午後一時車に駕して博物館に行く該館は縦覽午後三時を限るを以て巡
視中既に出場を促す依て再視を期し直ちに該館を出て駕して市街を通
視し轉してポリシツプ海岸の半はに至り車を返へし歸路ボンベイのバ
ノラマを見る○右觀場は海濱の途上旅寓の近邊にあり圓形の煉瓦造に
して周回約そ吾か六七間四方ありバノラマとは見せ物の謂にして即ち
紀元五十六年に火山噴裂ボンベイ邑埋没せし時の景狀を摸寫したるも
のなり門戸へ入るや切符を賣り見料を取る數十段の石階を巡回して昇
る此間最も暗黒にして欄干に倚て漸く上下するを得る觀場に至るや其

景狀眼中渾て模糊恰も朦朧たる月夜の如く忽ち視る火山噴裂烈火天を突き黒烟空を捲て八方に飛亂し燒土熱灰市街屋宇に雨注し人蕃號き叫ひ老を扶け兒を携へ海岸に向て遁走危急を免れんとす其混雜狼狽名狀す可らす火降震動一時に至り陰鬱たる殺氣八空に充滿し天地將さに摧裂せんとす一人屋上に出て噴煙の飛來するを顧みず兩手を舉て仰て聲を發するの狀あり解説者曰天を祈なりと其他市街家屋樹木道路山野江海島嶼船舶等の狀況渺茫たる地中蒼海の遠景に至る迄一として實地の目撃に違はざるへし之れを見るもの凜然驚歎せざるなし抑も一千八百年後に生れて當時の一大奇變を實視するか如くならしむるは蓋し此畫法の妙的なり觀場と畫壁との距離三十メートル吾か三丈餘にして而して眼中更に際涯を識別す可らす看客をして夢中の思をなさしむ○夜馬芝居を一覽す俳優は婦女多くして伎藝皆妙を得たり

六日 (晴金曜)

午後三時車に駕して外務卿マンチニー氏の寓に至り妻と共に同氏の令嬢に面會し暫く懇話す時にマンチニー氏より書記官ビヤンキ氏をして予及び妻、田中書記官と車を同ふし苑中を周觀せしむ觀畢て六時半旅寓に歸る但し苑景は他日に詳記す○晚餐後市中を散歩す街燈路を照らして明晝の如く戸々相競ふて美品を列す往來織るか如く肩摩數擊誠に伊國第一の都會たるに背かす歸路試に乗合馬車に乗て旅寓に歸る

七日 (晴土曜)

正午十二時駕して再び博物館に至る三時出場歸路コルソ街頭の賣物店を通視し轉して海濱の公園内を一周して四時半歸寓す○薄暮外務卿マンチニー氏來訪せり暫く談話して後ち去れり○博物館は市中本街の傍らにあり構造は高明なる三層の巨宇にして白石を以て築造し彫刻彩畫

共に精を極む古器物圖畫名像甚た多し大小の室凡そ二十有餘ありボン
 ペイより掘り出したる紀元五十年の都府に現存せし嵌石の細工屋壁に
 存せし藻纒及び人物或は當時の家具什器を陳列す其他油繪の大額及び
 大理石の巨像尤も多く銅鑄の希臘文字埃及の古物も亦多し畫工遊客日
 々就て臨寫せり一婦あり小さき圓形の象牙へ人物を模寫せり尤も精巧
 を極む又ボンペイの埋没せし處を近時迄掘撥したる現状の大なる土圖
 あり此外銅器陶器石器の類及び古金銅錢等幾千なるを知らず一箇の水
 盤あり徑一丈五尺に一丈三尺計りなる楕圓形の大盤なり蓋しカラカラ
 帝の湯館にありしものと云へり又一室に往古の人屍數箇あり石棺に入
 れし儘側は立て、硝子の内に收め全體皆存し色悉く眞黒なり往昔埃及
 の風俗人死して四體腐敗すれば忽ち禽獸となりて再生すと云ひ傳へり
 故に子弟親戚其の死體を腐敗に歸するに忍ひす屍の臟腑を脱し中に藥

品を詰め石棺に收めて埋葬するときは幾千年を経るも腐敗することな
 く依然形を存せりと此藥品多くは印度地方より得ると云ふ此に陳列せ
 し死體は即ち此類なるへし數千年の人屍を依然今日に見るは實に稀代
 と云ふへし

八日 (晴日曜)

午後二時駕してカツボジモンテの王宮を巡覽す蓋し外務卿マンチニ
 氏と約あるを以てなり書記官ビヤンキ氏誘引せり巡覽終てビヤンキ氏
 と車を同ふし又別にビヤンキ氏の令室は予か妻と車を共にし田中書記
 官之れに乗し兩車同く王宮を出ポリシツプ海岸に遊行し六時半別れて
 旅寓に歸る○カツボジモンテ王宮は國王の別宮にして港の東北に位し
 地を占むる甚た廣く庭苑は草花の媚樹木の致を盡し殿宇には裝飾の美
 器具の巧を極む苑徑四通して幅員甚た廣く樹木蓊鬱として枝を接へ清

陰空を掩ひ翠嵐衣巾を浸す恰も吾か吹上禁苑の景致に彷彿として周圍は之れに倍せり郷里を發してより以來未だ如此老樹巨幹の森蔚たるを見す樹下には鳥兔人に昵れて群遊し草原には牛馬互に逍遙す宮殿に昇れば一階の樓上に先王ビクトールエマニユールの石像及び當王の石像を設置す又先王と故大將ガルバルシーと戰中馬上談話の圖及び先王五六輩の將士を従へポンペイに遊覽の圖皆精美の油繪なり其他各室に懸くる處の大小の畫額其幾百なるを知らす一として美術精巧ならざるはなし各室悉く美麗の粧飾にして就中皇后の寐室の如きは金銀を鑲はめ其結構華美なること筆上の能く盡す可きにあらず又陶器を以て一室を裝飾せるあり其陶器には種々の焼付をなし而して花草禽獸等を畫けり又一室に各種の陶器を陳列せるあり皆精巧を極む又廣闊なる一の室内には古代の甲冑、劍槍、馬具、弓矢、大小砲器及び甲冑乘馬の像を列せり其

他夥多の石像彫刻物悉く緻密微妙神に入らざるはなし誠に一大壯構の博物觀と云ふへし轉して廊頭に出れば那不兒の全街眼下に碁布し前面海水を隔て火山を望み山水天然の風景を占領して内外兩ながら景致を得て最も爽快の佳境なり此宮殿中皇后の寐室等は他人の參觀を禁すれとも予か至るや特に開室して一覽を許せり以て待遇の厚を知るへし○今宵當港を發して將に羅馬に歸らんとす晚餐を喫し旅裝を修む時に領事來訪蓋し告別の爲めなり八時半旅寓を發し駕して停車場に至る領事先に至り周旋し九時發車す暗夜の途上得て記すへきことなし

九日 (晴月曜)

午前六時羅馬着車直ちに駕して館に歸る

十日 (晴火曜)

十一日 (晴水曜)

午前ピンチヨ公園に散歩す苑内秋花爛熳として芬香を放ち頗る心目を喜はしむ午後ポルトビヤ野外に散驅す○ポルトビヤは府の東南にある郭門にして千八百七十年九月二十日伊國大將カトルナ部下を卒いて法皇の兵と戦ひ城内に進入せしは即ち此門なり門の外面左側に伊兵戦死者の記念碑あり今に至る迄諸民香花を備ふ詩一首を得たり

沐雨櫛風百戰功多年宿志不空郭門鎖鑰無人護鐵馬一聲驚法公

此門を出れば直線數十町左右石壁の内に廣闊なる庭園或は菜園葡萄園等あり野外に出れば一帯の河流ありチーブル河の支源にして兩岸に柳を植ゑ甚た我が國の河岸に彷彿たり此河に小石橋を架し其上に樓門あり最も古代の建築にして昔時の關門なるへし野外は草原漂渺丘陵伏起しアツベニーニ山脈アルバノ山脈等綿亘數十里の外に繞圍し高巒白雲を帯ひフラスカチー、チーポリ其他二三の村落曠原を隔て遙に山麓に市

街をなし遠く白堊の皎然たるを望む首を南方に回せは昔時水道の殘礎石壁高さ數丈恰も長橋の如く廣原を横斷して聯綿城郭に達し氣象豪壯にして昔時盛都の景狀想ひ見るへし又路傍には吾か邦に異なる處の雜花妍々として芳を競ひ牛馬羊豚處々に群をなす野外の逍遙は俗塵を脱し最も靜閑にして心氣闊然甚た健康に適するを覺ふ○羅馬郭外は渾て曠野にして人家も亦甚た稀少草原渺茫として僅に放牧に用ゆるのみ抑も如此沃土を放擲して顧さるは何に因て然る乎土地に比すれば人口少き故乎將た人民の怠惰に因るか聞く處に據れば此等の土地は概ね法皇に附屬せる貴族の所有地にして敢て公益を起し民生を利するの點に念慮を置かす政府に於ては専ら開墾建築等に意ありと雖も目下猶ほ未た着手の期に至らす實に止むを得ざるに出るものなりと夫れ或は然るならん

十二日 (晴木曜)
 十三日 (晴金曜)
 十四日 (曇土曜)
 十五日 (晴日曜)

夜芝居に行くポアトトルア此劇場は外面粗略なれとも内部は美麗にして當府第一等の芝居なり舞臺の正面及び左右を通回して六層となし層毎とに數十區を設け一區六人を座せしむへし中央の下座は後背次第に高く數百の椅子を列置し凡そ三百餘人を座せしむへし四壁上宇の積藻舞臺の裝飾金光燦爛として美麗を盡す中央に巨大金装の燈臺を釣り下げ數百の瓦斯を點す演題はアフリカンと稱し亞非利加古代の歴史を演す俳優の出る多きは男女殆んど二百人に下らざるへし樂人も亦五六十の多きに至る技術皆妙を盡し衣裳の美金玉燦然として目を眩す滿場拍手

の音絶へす

十六日 (晴月曜)

今曉以來身體稍や例ならず夕刻醫師を迎へ診察せしむ此醫師姓はエラード日耳曼大使館付の醫師なり日耳曼の人にして毎ねに此地に住す老鍊にして國手の名を得たり

十七日 (晴火曜)
 十八日 (晴水曜)
 十九日 (晴木曜)
 二十日 (晴金曜)
 二十一日 (晴土曜)
 二十二日 (晴夜雨日曜)

午後二時半駕してカピトール古物館に至る同處閉場により轉してカラ

カラ帝の浴湯館殘壁を一見す○カピトールは往昔ロムルスの始て城壁を築きし處なり一の岡陵にして正面に廣き石階數十級を設け左右斜面に依り砌を造り樹木を植ゑ右側庭樹の間に鐵圈を造り中に狼二頭を飼ふ俗にロムルスの故事なりと云ふ詩一首を得たり

豺狼有意護神孫千古舊蹤今尙存憐殺終生安鐵圈平原不復試雄奔
石階の左側には迂回したる馬車道を造り上層に廣達を開き石欄に沿ふて巨大なる石像數箇を建つ又中央に大なる騎馬の銅像あり昔羅馬マルクラーレル帝の像なり金を以て塗たれとも今は金色僅に存するのみ此後に羅馬の區廳あり千三百八十九年の建築にして高闊巍然として起る此中に區會議事堂及び天文臺を設く又一の高塔を起す是れは千五百七十二年法皇グレゴアール十三世の建設する所にして直立數十丈全府壯觀の一たり此廳の前面兩側にある處の家屋は千七百年時代の者にし

て右にあるは消防方の屯營左は則ち古物館なり館内數多貴重なる彫刻物を陳列すと云ふ此處は地形甚た好く規模豪壯にして羅馬公廨の第一と云へし○カラカラ帝浴湯館の殘壁はパラタンの後面數丁の外にあり此れは紀元二百二十年にアトニヤンカラカラ帝の浴室を造りし所に於て其後エリヨガパール帝之れを増築しアレキサンドルセベール帝のとき落成したるものと云ふ時代の變遷に従ひ土地も亦高低し位地も稍や變移せる所あるへしと云ふ歴史に傳ふる處によれば此内に千六百の浴場を設けたりと長さ二百三十メートル廣さ百十四メートル之れを圍むに一連の石壁を以てし彫刻或は嵌細工等をなし裝飾美麗を盡し奢侈を極めたるものなり當時羅馬の人此に集浴し浴後廣堂に會し種々の遊戯をなし以て快樂を極めたりと今は全く荒廢に歸し只殘壁僅に存し館の景狀も彷彿として存するのみ此館に殘る處の石柱の大きさ方一丈に及ひ

壁の厚さ之れに準す残壁高きは十有餘丈もあるへく上に荒草を生し阜岡の仄立するか如く群鳥此に栖息して探古者の感慨を生せしむ詩一首を得たり

柱折壁頽石柵荒班々殘礎駐奇章流連逸樂空存跡千古醜名奈此王中古此館内に於て掘出せる彫像嵌細工等頗る多く就中高名なるエルキールフロール杯は那不兒の博物觀に貯藏し嵌細工の美麗なる敷石等はサンジョワニー寺の古物館に貯藏せりと云ふ

二十三日 (晴月曜)

二十四日 (晴火曜)

午前九時駕してプチカン宮に至りガルリー油繪を貯蔵する處を一見す〇プチカン宮の内にガルリードタブロー油ミユゼー彫刻ヒブリヨテック書籍の三大名觀あり皆法皇の宮殿に屬す抑も此ガルリードタブローは法皇コゼ

ン三世及びニコラ三世共に殿宇を増築し一千四百十年に法皇シアンニ十三世此宮よりサンタンゼロ城に長廊を連築し綿亘數十町今猶ほ依然として存す只廊内の往來を隔絶するのみサンタンゼロ城今は陸軍の兵營に用ゆ法皇ニコラ五世の時に於て此宮を世界第一の壯美となさんとて政廳諸公廨及びカルジナル官僧の住居を悉く此内に集む一千四百七十三年法皇セキス四世シヤベルセス禮拜堂を構造す此内に昔羅馬時代の有名なる畫人ミセルアンゼールの畫きしフレスク名畫あり宗旨上の圖にして他に比類なきものなり上宇も亦同畫を用ゆ人皆遠眼鏡を以て仰ひて之れを見る重なる祭事には法皇自ら此處に出禮式を行ふと云ふ此他ラフワエールスタンス、ラフワエールロジ、カツペールニコリナと名付くる三大室あり此も亦フレスクにて古代の名畫を集む夫れよりガルリードタブローに至れば部室を區別して每室巨額數枚を掲ぐ蓋し此處は法皇ビー七世の造營

せし所にして皆古代有名なる油繪にて最も貴重なるものなり佛帝拿破
 崙一世の掠奪し去りたるを取り戻したるもの又は諸寺院其他に貯藏せ
 るものを蒐集して此額堂に掲けたるものと云ふ第一室左側の壁上には
 レヲナルドダワンチ及ヒラフワエル等の畫きし貴重なる油繪あり第二
 室には右にドメニツキの畫きし最も著明なる額あり又ラフワエルの終
 末に畫きし前後比類なき巨大の額あり第三室にはチ、ヤン及ヒグエー
 ルチノ一の畫きし婦人の像あり第四室にはバランタンの畫きしサンビ
 エールの磔刑に處せられし處の圖あり以上のものを第一とし其他有名
 なる油繪甚た多くして枚舉に遑あらず且つ一として歴史上に關せざる
 ものなく皆古人畢生の力を振ひ妙巧を盡したるものにして一片の額價
 ひ萬金を投すと雖も猶ほ得可らず實に世界ガルリードタブローの巨臂
 と云ふ可し

二十五日 (晴水曜)

二十六日 (曇木曜)

二十七日 (雨金曜)

二十八日 (雨土曜)

二十九日 (雨日曜)

頃日身體例ならざるを覺へしか本日より一層の不快を増し寢床に着く
 夜半熱發甚た困難す

三十日 (晴又曇月曜)

病痾同斷醫師エラード氏朝夕夜共來診又大學醫學校長マナッセー氏も
 亦來診す

三十一日 (晴火曜)

病痾同斷醫師エラード氏來診

十一月一日 (晴水曜)
 前日に同じ
 二日 (晴木曜)
 前日に同じ
 三日 (晴金曜)
 前日に同じ
 四日 (晴土曜)
 前日に同じ
 五日 (晴日曜)
 前日に同じ
 六日 (晴月曜)
 前日に同じ但し本日は大學校長マナッセル氏エラード氏共に來診す

七日 (晴火曜)
 前日に同じ
 八日 (晴水曜)
 前日に同じ
 九日 (晴木曜)
 前日に同じ
 十日 (晴金曜)
 前日に同じ
 十一日 (晴土曜)
 前日に同じ
 十二日 (晴又曇日曜)
 前日に同じ

十三日 (曇又晴月曜)
 前日に同じ
 十四日 (晴火曜)
 前日に同じ
 十五日 (雨夕晴水曜)
 前日に同じ
 十六日 (晴木曜)
 前日に同じ
 十七日 (雨夕晴金曜)
 前日に同じ
 十八日 (晴土曜)
 前日に同じ

十九日 (晴日曜)
 前日に同じ
 二十日 (雨月曜)
 前日に同じ
 二十一日 (晴火曜)
 前日に同じ
 二十二日 (晴水曜)
 前日に同じ
 二十三日 (晴木曜)
 頃日來病痾稍や快方に赴く本夜より看病者の詰切りを廢す醫師エラー
 ド氏も一日一度來診せり
 二十四日 (雨金曜)

二十五日 (晴土曜)

二十六日 (晴日曜)

二十七日 (晴又雨月曜)

二十八日 (晴火曜)

二十九日 (晴水曜)

三十日 (曇夜雨木曜)

過日來逐日病痼快方に付本日より醫師の指圖により馬車にて運動の爲め外出す但し罹病後本日始て門外に出つボルゲーゼ園を一周して歸る

十二月一日 (晴又雨金曜)

本日も同く馬車にて運動をなす

二日 (晴土曜)

前日に同し

三日 (晴日曜)

四日 (雨月曜)

五日 (雨火曜)

午後馬車にて逍遙す但し以後日々の逍遙は略す

六日 (晴水曜)

熱那公より寫眞を賜はり本日遞送せらる

七日 (雨木曜)

郷書あり朝鮮紛議のことを載す一詩を得たり

雁書先喜報平安舒卷幾回仔細看太虛隣邦邊警事恩威願使舊交完

八日 (雨金曜)

九日 (曇又雨土曜)

十日 (曇又雨日曜)

本日午餐病後始て食堂に出つ予か病氣全く癒ゆるを以て皆盃を舉て祝す

十一日 (曇又雨月曜)

十二日 (晴火曜)

十三日 (曇夕晴水曜)

十四日 (曇夕晴木曜)

十五日 (曇又雨金曜)

十六日 (曇土曜)

午後病後始て公用の爲め外出す

十七日 (曇夕晴日曜)

午前公園地を散歩す以後日々午前運動のため處々を散歩するを例とす

十八日 (晴又雨月曜)

十九日 (晴火曜)

二十日 (晴水曜)

午後國會議事を傍聴す○國會議院はブラツスマントチドーにあり此れは舊と法皇付屬巡查の屯所なりしを千八百七十一年當政府之れを修繕して國會議院に使用し同年十一月二十七日始て開場式を舉行すと云ふ廣大の建築にして議場も亦完全し裝飾も稍や美なり此日宰相デブレチツス氏議場に立て政治上前途の意見を述ふること數時間辨舌滔々流るか如く嬰鑠として氣力甚た盛んなり演說中頻りに拍手賛成を得演述畢て後議員同氏の前に至り握手して同意を表するもの最も多數なり

二十一日 (晴木曜)

二十二日 (曇又雨金曜)

二十三日 (曇夜雷雨土曜)

二十四日 (晴日曜)

午後駕して逍遙ホルゲーゼ園に至る本日は此園に遊ぶもの最も夥く馬車散歩陸續として廣闊なる園徑も雜沓して時々車を止め前路の通するを待つことあり頃日はカトリック宗の祭日にて我が國の新年の如く衆皆業を休み相互に物品の贈遺をなすを習慣とす故に日々遊歩に出るもの殊更に多くして處々賑へり殊に本夜は耶蘇の生誕に相當するを以て終夜各寺に祭をなし巡拜するもの來往甚た繁し

二十五日 (晴月曜)

本日も市中及び諸遊園等頗る賑かなり

二十六日 (晴火曜)

二十七日 (晴水曜)

晚餐後ナショナル街の廣達にある見せ物鱈魚及び獅子を見物に行く
○鱈魚は假屋の内に池を設け周圍に厚き板を廻し此内に鱈魚大小殆んど六七十尾を集む長さ七八尺より丈餘に至るもの數尾口の大なるは恰も馬に類し四足生して全形鯁の如し狀形甚た醜惡人をして一視悚然たらしむ時に守丁片肉を木頭に貫き彼れの口側に出す彼れ徐々巨口を開き忽然一喫響きあり該魚の生みしものとして一の卵を示す半は破壊して小鱈其内にあり大さ全く鯁に異ならず○此假屋の隣に長き板屋を設け獅子を養ふ鐵圈二箇を設け一圏には牝獅三頭犬一頭を入れる一圏には牡獅一頭牝獅二頭を入れる觀客場に滿るの頃一男一女軍人の如き衣服を裝ひ鐵扉を開て入り自在に獅子を使ふ猛惡彼れか如きも其柔順なること猫も猶ほ及はさるか如く種々の藝を爲さしむるに敢て其指揮に違ふことなし畢て又右の婦人蛇を使ふ蛇二頭丈各七八尺亦繩の如く甚た自在

なり後ち數月を経て獅子怒て國人に仇
し遂に死に至らしめたりと聞く

二十八日 (晴木曜)

午後一時妻王宮に參殿し始て皇后陛下に謁見す

二十九日 (晴金曜)

午後妻始て各國大使及び公使の内室を訪問す

三十日 (晴土曜)

本日晚餐に醫師エラード氏并に同マナッセル氏其他懇意を通するもの
數名を招き兩醫に予か病痾の快復を謝する寸情を致す

三十一日 (晴日曜)

午後二時來十六年々賀の爲め妻と共に王宮に參殿し兩陛下に謁見す但
し當國に於ては本日をも以て國王皇后と共に各國交際長官夫妻の年賀を
受るを例とす兩陛下握手接遇最も親密なり式畢て四時退殿す

明治十六年一月一日 (曇月曜)

午餐日本料理を命し盃を舉て新年を祝す

二日 (曇火曜)

三日 (曇水曜)

四日 (晴木曜)

午前十時より駕してカピトール美術館及びサンジョワニー寺の美術館
等を巡覽す○カピトール美術館は法皇インノンサン十世の創設する所
なり則區廳の前面右側にあり専ら古代の石像を貯藏す甚た多數と云ふ
にあらされとも古時有名なるものを貯藏せり○サンジョワニー寺の美
術館ミュゼイラトは分て三區となし一をミゼープロフワースーをミュゼ
ーリレチャニーをガルリージュバンチユーと云ふ此にも亦古代の彫刻
石像を集め最も見る可きものあり

五日 (晴金曜)

六日 (晴土曜)

七日 (晴夜雨日曜)

午後駕してサンジョワニー寺に至る。○サンジョワニー寺は府外の南城門の内にあり紀元二百六年の頃コンスタンチー帝の時代之を創起したるものなり八百九十六年震災に罹り九百六年より九百十一年の間に法皇セルシユー三世之れを再營す千八百八年又火災に罹り法皇クレマン五世更に之れを建築し千三百六十年再ひ烏有に歸す其後法皇三代續て之れを築營し全く落成せしは法皇ビエト六世の時代なりと云ふ寺の大さはサンピエール寺に亞き裝飾の美麗なるはサンポール寺に次く座下に一室あり石階數十を下りて此室に至ればサントマリー耶蘇の死體を抱へし石像を安置し其四方に石棺數箇を置く本寺は南を正面とし區宇

巍然として遙にアルパノの曠原に向ひ屋上には巨像數箇を並立し遠く數里の外に見ゆ最も豪壯の觀を呈す又側らの廣達には中央に埃及の長圓塔を建つ全柱雕刻あり半は消滅す此塔は紀元前千七百年代の物と云ふ實に稀代の古物と云へし

八日 (雨月曜)

九日 (曇火曜)

當國王陛下より吾か天皇陛下及び有栖川親王殿下へ送進せらるゝ王の撮影を宮内省より到來す

十日 (曇水曜)

本日は王宮に於て晚餐を賜はるゝにより午後七時參殿す此宴は則ち新年の宴會にして各國交際長官夫妻に國王皇后兩陛下の陪食を賜はるの例なり結構壯嚴酒饌鄭重を極む陪食後兩陛下談話數刻十時三十分退殿

す詩あり

大王愛使臣堪識友邦親陪宴光榮足天涯醉此春

○王宮はキユイリナル街にあり前面に廣遠を開き巨大なる石像二箇各馬を控へて立つ前に噴水を飛ばし中央に埃及塔を建つ地形高阜に據り最も眺望に富み遙にサンビエール寺に對し府街脚下に起る左面に外務省あり樓門巍然たる上にジビサツション世の開化に象の彫刻像を安置し一大美觀たり此宮殿は舊と法皇の居城にして一千五百七十四年法皇グレンコツール十三世之れを建築し歴代法皇夏時専ら此に住す土地高燥にして空氣流通し甚た健康に宜しき處なり舊と此宮内にはカルジナール官僧の集議處を設け法皇の選舉も亦此處に於て舉行せり一千八百七十年九月二十日伊國の兵羅馬に侵入せしとき法皇はグチカン宮に退き以來當王家の所有に歸し此を以て王家の本宮となしたり○此宮に入るや

左側に大なる石階あり此階を経て大書院に至れば美麗なるフラスク畫を以て粧飾をなす院の右に數室あり各室の粧飾油繪及び敷物等皆當世のものを用ゆ又内庭の側らに一室あり此は各國帝王及び皇族の來訪ありし時旅館に供する室なり佛帝拿破侖一世も此に駐在せしことありと云ふ庭園は甚た清美にして珍草奇木を栽培し府内の景色を占領して眺望尤も佳なり

十一日 (晴木曜)

十二日 (晴金曜)

午後駕してバンプイリー園園に逍遙し同處花園に歩し且つ閣上に昇る花園の結構雅致ありて樓上の眺望又佳絶なり

十三日 (曇土曜)

十四日 (雨日曜)

十五日 (晴月曜)

山田貢一郎病院に於て病死す

十六日 (雨火曜)

本日は伊太利國先王ビクトールエマニエール二世の年祭執行あるに
より午前十時パンテラン寺王家の菩提寺に至り祭事に會す祭儀十二時に畢る
○パンテラン寺は羅馬に於て第一の古寺なり昔は寺の粧飾美麗を極め
しも中古剝落して今は見る可きものなし堂内には柱を用ひす廣大なる
圓堂只周圍の柱壁を以て維持するのみ且つ窓を用ひす只上宇を空開し
以て明を取る堂の直徑凡そ四十メートル餘上宇の丸さ直徑九メートル
ありと云ふ此寺創設の年度は分明ならされとも舊と茲に羅馬帝ヲーゲ
フト及びアグリッパ兩帝の大像ありしを以て考れば紀元前二三十年の
建築なる可しと云へり往古は平地より五六級の石階を昇りて堂内に入

りしも地形次第に低下して今は昔日に反し五六級を下りて堂内に入る
十七日 (晴又雨水曜)

午後二時山田貢一郎の葬儀を行ふ仍てプロテスタントの墓地に會葬す

○午後七時三十分日耳曼大使の招きにより同館に至る晚餐の饗あり

十八日 (晴木曜)

十九日 (晴金曜)

午後十時外務卿マンチニー氏の接客日により同氏を訪問す

二十日 (晴土曜)

午前十時駕してパレールスピリヨーションに至る此れは昔羅馬コンスタン
チー帝の温泉のありし處にて此温泉の荒廢せし跡に於て僧のシビヨン
ホルゲーゼなるもの千六百〇三年に此館を建築し集畫館となせり畫堂
の上宇にガイドと云へる人の畫きし宗旨上の畫あり最も有名貴重なる

ものと云ふ其他多少の畫額を貯藏すれとも結構狭少なり○夜芝居ロアボに行く

二十一日 (晴日曜)

本日は當府美術博覽會開場式の舉あるにより十二時駕して同館に至り式に會す○美術博覽會場はナシヨナル街の中央にあり當今の新築にして前面の樓上に女神三體美術の神の石像を安置す其左右の屋上及び兩側の屋上にも石像を列置し構造惣て清麗にして最も美觀たり場内には彫刻繪畫夥く陳列す場内最も廣くして區畫も亦多し此日兩陛下及び太子文武百官と共に臨場せられ各國使臣等皆大禮服にて之れに會す區長國王の前に進て祝詞を述ふ此日會するもの無慮五千人場内爲めに充塞す

二十二日 (晴月曜)

本日午後七時を以て各省卿輔夫妻上下兩院の議長等を招き晚餐を饗す

十一時散す

二十三日 (晴火曜)

午前ピンチヨ公園に逍遙し始て氷を見る羅馬にて雪氷を見るは稀なり ○午後三時より駕してピルラメニリーに行く此山莊は郭外西北チーブル河の上にある老杉繁茂し遠く數里の外に見ゆ岡上に庭園を造り深林の下に草花を植ゑる静閑にして俗塵を脱すチーブル河は脚下に流れ市街は眼中にあり遠近の景色を占領し得て眺望正に窮りなし但し本日は寒風凜々として衣巾を拂ひ徐ろに光景を眺るを得す暫時にして山を下る莊園の背面に砲臺を築き番兵を置く則ち羅馬北門の警備なり

二十四日 (晴水曜)

本日は午後接客日により多少來客あり本日より毎水曜を以て待客の日とす但し冬より春の間を専ら交際の時とす故に豫め待客日を定む ○午後七時各國大使公使を招き晚餐を饗し十時散す○

十時三十分埃地利大使の招により同館に至る十一時三十分歸館す

二十五日 (晴木曜)

午前ピンチヨ公園に逍遙す頃日寒甚し噴水騰飛の餘滴凍て上部の樹梢に固着し數聯の凍柱を爲す羅馬にて如此寒氣は甚た稀なりと云ふ

二十六日 (晴金曜)

二十七日 (晴土曜)

本日よりカルナバルと稱し市中男女俄踊りをなすこと殆んど二週間種々異様の風體をなし以て觀衆の喝采を得るを譽れとす本街コルソに於ては家々檐上に棧敷を設け五彩の布を以て幕を作り且つ種々の粧飾をなす街端より之れを望めは紅白金彩風に翻へりて美觀を呈すコルソ街は皆業を休み或は棧敷を人に貸す其價最も不廉然るに人皆争て之れを借り以て此間の快樂を取る初日には此棧敷より土塊を投げ初日以後は花を投げ以て往來の人に戯るゝを例とし或は投げ或は投げ

らるゝを以て最も有興のことゝなせり凡そ一週餘日間に三四日投花の盛んなる日あり此日には市民老若を問はず種々の異風をなし或は組々より山車を牽きコルソ街を通行す其喝采を得るに當りては至る處投花雨の如く積て堆きをなす本街は通り物の馬車陸續觀衆雜鬧を極め全街立錐の地なし夜は各處の劇場及び廣達に於て市民男女相伴ふて踏舞をなし殆んど徹夜人事を顧みざるものゝ如し狂する如く酔える如く實に奇異なる習俗と云へし但し羅馬市街の繁華は年々此前後を以て最も盛んなる時とし旅客の來遊するものも此時を以て最も多しとす併し此習俗も昔日に比すれば漸く趣を異にし年を逐ふて遊戯を爲すもの少きに至ると云ふ抑もカルナバルとは宗旨の祭名にして往古希臘のときハキウースと名くる酒神を祭るため種々の事をなせしことありしより其故事の傳りたるものにて此の祭の名をバカナルと稱す即ち後世に至

りてカルナバルと稱し風體も亦種々に變化せしものなるへしと云ふ此習俗は専らカトリック宗に存するものなり

二十八日 (曇夕雨日曜)

午後駕して逍遙すコルソ街頗る雜沓し容易く通過するを得す

二十九日 (晴月曜)

本夜は王宮に於て夜會の催しあり案内を請け十時參殿し二時三十分退殿す○此夜會は毎年カルナバルの間にあるを例とす此夜宮殿には數千の瓦斯を點し殿中白晝に異らす十時三十分國王及ひ皇后陛下臨御あり此時樂隊樂を奏す皇后の御衣裝飾の美麗なる金剛石全身に滿ち又同石を以て作りたる襟飾を頸に纏ひ光輝燦然として四邊に映射す此夜來會するもの男女無慮千二三百人貴顯紳士の妻娘は相競て綺羅金繡を輝かし最も全盛を爭ふ暫くありて廣堂に踏舞を始む第一に皇后陛下英吉

利大使と共にカドリードノールの禮式の踏舞あり各國使臣上席なるもの皇后に

使上席なれとも此夜不參により續いて内外貴紳の夫妻右に準し組合を以て踏

次座なる英國大使之れに代る舞をなす之れを例式とし畢て交互隨意に踏舞を始む正に是れ不夜城中

金光玉華燦爛として滿堂に輝き樂聲翕然として起る國王陛下は専ら各

國使臣其他貴紳の人々と談語せられ皇后陛下は又其令室等と接話せら

れ親密懇到一時三十分入御あり二時立食を開き三時最終踏舞の音樂を

奏す是に於て皆歸裝をなして退殿す○例年最終の踏舞にコチリヨンと

云へることありしか本年は之れを略したり然れとも婦人には皆國王の

紋を付したる銀の美しき花挾を賜へり

三十日 (晴火曜)

三十一日 (雨水曜)

午後待客定日により多少來客あり○夜芝居アポに行く

二月一日 (雨水曜)

本日午後七時を以て各國交際官の内過日不參の人々等を招き晚餐を饗す十一時退散せり

二日 (晴金曜)

三日 (晴土曜)

カルナバルの賑ひを一見せんか爲めコルソ街なる齋藤書記生の寓所に行くコルソ街の雑沓寸地を剩さす種々珍奇なる造りものをなし此日投花の戲最も盛んなり組々造りもの、新奇にして趣向妙を得たるものは區廳より褒賞を得ると云ふ○夜十一時美術學校よりの案内を受け同校に行く夜會の催しにて踏舞あり

四日 (晴日曜)

午後八時三十分より駕してナシヨナール街の點燈を見物に行く街道處

々に花瓦斯を點し花紋或は種々の文字を造る街頭に至り見れば廣路に木葉線を架し之れに付するに數萬の球燈を以てし紅白燦爛として萬珠をなす又少年の樂を奏し踏舞をなすあり市民群集織るか如し一覽を経て歸館し十時半再び劇場テアトリトルコンスに行き市民踏舞の景況を一覽す此劇場は近年の築造にして構内最も廣く棧敷も亦甚た多しカルナバル中は處々の劇場に於て踏舞の催しあれとも此劇場を最も盛なりとす正面の中央には噴水池を設け飛跳數丈殆んと上宇に達す上窓より電氣燈を引き五彩の光を放射して池水を照らす水色變替して甚た美觀なり劇場は一般に群衆湧か如く男女各面を覆ひ種々異様なる風體をなして相舞踏す廣場も爲めに咽嗔し雜沓極めて甚しカルナバル中の概況は前既に記するか如く此夜も老翁黃嫗又處女少年と共に相雜りて踏舞し皆醉夢の中に在るか如し實に今時歐洲に稀なる舊習と云へし

五日 (晴月曜)

此夜も又王宮に於て夜會あり十時參殿す殿中の模様及び踏舞の次第等
惣て去る二十九日の夜に異ならず故に記せず但し毎年兩度此盛會ある
を例とす

六日 (晴火曜)

午後六時より駕してコルソ街の點燈消火の戲を見る此夜はカルナバ
ル遊戯最終の夜にして家々の廊上に大蠟燭を點し且つ處々に花瓦斯を
設け滿街恰も晝の如し市民蠟燭に點火して街路を往反し互に火を消し
以て戲嬉とす又或は花を投げ以て人に戯るコルソ街の雜沓又更に甚し
カルナバールの風習此に至て益其奇異なるを覺ふ

七日 (雨水曜)

本日午後待客日により多少來客あり

八日 (晴木曜)

午後二時より駕してボンテモーレ野外に逍遙し同處草原に歩し雜花を
摘む心氣豁然大に鬱散せり詩一首を得たり

帝王百代跡全虛回首江山感有餘沃野茫茫長荊棘白雲一帶護荒墟

九日 (雨金曜)

午後十時よりマンチニー氏に至り一時過ぎ歸館す

十日 (晴土曜)

十一日 (曇日曜)

十二日 (曇又晴月曜)

十三日 (曇火曜)

十四日 (雨夕晴水曜)

本日例の如く待客日により多少來客あり

十五日 (晴木曜)

午前十時駕して煙草製造所を一覽す○伊太利に於ては一千八百六十九年以來煙草製造を一の會社に特許するの法を設け全國に於て十七ヶ所の製造所を創設せり都林米爾那不見羅馬バ一千八百八十二年全國の製造高粉煙草三百二十六萬六千八百餘キロ我キロは七刻煙草六百三十八萬四千餘キロ葉卷煙草六百十七萬二千餘キロ紙卷煙草四百八十萬六千餘キロなり近年國會の決議により會社に特許するの法を廢し來年則ち一千八百八十四年第一月より政府の所轄となすと云ふ此羅馬にある製造所は一千八百六十七年右會社の新築する所にして現今使役する所の職人男女併て一千人一ヶ年製造の高粉煙草五萬七千三十二キロ刻み煙草十三萬四千七百三十二キロ葉卷煙草五十五萬八千九百五十三キロ紙卷煙草は此に製すなり此にグツビー及ひペロジと云ふ兩機關士の發明に係る珍し

き器械を備ふ此器械は輪轉風力を以て煙葉の水氣を乾す器械にして一分間に輪轉すること百二十回最も神速なるものなり從來煙葉を乾すには皆水勢の壓力を以てす故に動もすれば葉を損するの憂あり此器械の如きは未だ他に比類なきものと云へり

十六日 (晴金曜)

十七日 (雨又晴土曜)

午後三時三十分駕してポルトサララの野外に逍遙す此路は佛羅稜に至る汽車線路のありし處なり此邊も亦平野曠闊望漫々たり

十八日 (晴日曜)

十九日 (晴月曜)

二十日 (雨火曜)

二十一日 (晴水曜)

本日午後待客日に付多少來客あり○夜十時例に依て外務卿マンチニ
氏に行き二時歸館す

二十二日 (晴木曜)

午後四時亞米利加公使の案内により同館に行く但し本日は華聖頓の祝
日なり

二十三日 (晴金曜)

今回ヂユツクドタラス公へ吾か天皇陛下より大勳位菊花大綬章を贈與
あらせられしに依り捧呈の爲め本日都林に向て發途す歸路米蘭威尼斯
佛羅稜を歴觀せんとす午後一時半妻を携て公館を發し停車場に至る田
中書記官等來送す二時五分發車此日天色晴朗氣候温暖にして府外に出
れば田野春光を帯ひ烟霞雲に連なる三時二十分地中海岸を馳す途上海
水を左にし平岡を右にす蒼海渺茫心腸自から豁然たり四時チビタベチ

ヤを過く此地は海水浴場のある處にして多少の人屋連櫓す四時十分コ
ルシカの分島遙に煙を帯ひて海上に見ゆ五時半日沒す爾來數ヶ所の停
車場を經過すれとも途上見る處なし汽車は上等別室を借り受け寢床も
備はり渾て寛裕なりと雖も車輪の響甚た高く頭腦を惱まし穩眠を得す

二十四日 (晴土曜)

車窓夜明くれは凍霜野に満ちアルプの峻嶺雪に沒し旭日銀峯に映す光
景佳絶恰も畫中の如し七時半都林に達す直ちにホテルリギユリーの馬
車に乗り同亭に至るヂユツクドタラス公へ予か着を報す暫らく休憩し
て九時半市街巡觀のため出寓す○本日直ちに勳章授受に付午後第二時
タラス公より陸軍士官某をして馬車を以て予を迎ふ即時齋藤書記生を
隨へて士官と同く該車に乘し同公の邸に到る公に謁し勳章を捧呈し且
つ朝命を傳ふ公恭く收受して答辭あり畢て辭し去る時に三時なり七時

同公邸内に予を招き晚餐を饗せらる接伴數輩談話漏を移す而して今宵予か爲めに芝居見物の催しあり食後接伴掛と共に劇場に赴く觀畢て十一時寓に歸る但し今回妻の同行は披露せざるに依り饗應に預りしは予一人のみ

○都林は辟門州の首府なり該州はアルプアヘニンの兩山にて東西北の三方を圍みチ、ノを以て州の境とす此州の内に都市四つあり都林は其最大なるものなり往昔此州にカルロアルベルトと云へる人あり當伊太利王サボワ家の始祖なり此人一千七百九十七年に生れ佛國陸軍學校に入て成業し一千八百二十一年兵を擧て埃地利に抗し魯佛兩國の應援を得て埃國に勝ちしより該州日を遂て強盛に赴き一千八百四十八年に至りコントカプーブルなる者の請願により代議政體を創設す其年隣州ロンバルジーに内亂の起るあり此に於てアルベルト伊太利統一政治の議

を唱へ埃國に向て再び戰端を開き轉戦利あらずしてノバラに退き位をピクトールエマニエールに讓る其後エマニエールの興起するに當り都林を以て都とす則ち當王家第一の舊都府なり故に王家記念の銅石諸尙此地に多し此府は北緯四十六度東經七度に位し人口二十一萬四千人餘西北にアルプの山嶽を帯ひポー河市街を貫流す府の創設は昔羅馬アীগスタス帝の時代に係り其後屢々改造してサボワ一家に至りて美麗の建築をなし市街は渾て清潔にして街路井形をなし悉く石を發し街衢規則の整備せること伊國第一と稱せり人民も勤勉業を勵み懶惰の風少し製作工業を初め商業に銳意なるか故に王家遷都の後と雖も更に其繁榮を減することなし○ピヤッツァカステロー街は市街中央の廣達にして街路四達最も繁華の處とす茲にガルリー街あり街上硝子を以て圓形の屋根を造り雨中と雖も傘を要することなし之賣店戸々競ふて美麗を極め路上には大理石を發し店

頭悉く大形の硝子を張り往來の人影左右に明寫す此街路の下底に廣き咖啡店あり上街の傍らより大理石の段階を下りて此處に至る正面に舞臺を設け小演劇或は踏舞をなす千客茲に來集して酒菓を喫し且つ技を見る夜中尤も盛んなり○バラゾマタマと云へる古城ビヤッツア、カステロー街の中央にあり有名なる築造にして人民誇稱する處なり此城一千八百六十五年代迄は伊國の上院たりしか今時は學堂となれり此街の北方に王宮あり數層の石樓巍然として立つ宮内に往古の武器及び拿破侖一世の銅像其他日本古代の武具を陳列すと云ふ又傍らに昔時の宮殿ありカリナノと唱ふ一千八百六十年より一千八百六十五年の頃は伊國の議院たり現今古物館となせり又西面に當り美術館あり高層巨大の石屋にしてカリナノの宮殿と東西相對して巍立す此館の前面にサボワ一家の始祖カルロアルベルト駿馬に跨り軍隊を指揮する處の銅像を建つ威

風凛々戰時を想像するに足る石階を四段に築き上段の廣さ凡そ九尺四方毎段の周圍に戰陣の圖を彫刻す此段石は英國蘇格蘭スコットランドより輸入したる名石なりと云ふカルロアルベルトの銅像は上段の中央に屹立し其四方の角端にサルジニヤの歩兵の銅像あり皆外面に向て立つ此兵士の頭上に各婦人の形を造る但し象る處の義あり此處南はガルリー街あり東西北の三方は王宮美術館等雄樓傑閣巍々として空に聳へ中央の廣達は一面に石を發し規模宏壯最も壯觀の場處たり美術館の後ろに當り古物館あり埃及往古の神體人像等の彫刻物數多あり且つ數千年を経たる死體若干を保存す彫刻或は畫績をなしたる美麗なる石棺に收めたるもあり其他昔羅馬時代の彫刻もの數ふるに違あらず又油繪の室を十五區に分ち大小の畫額惣て五百有餘あり然れとも精妙稀代の物は茲に乏しと云ふ此處を去りビヤッツア、サンカルロ街に至ればエマニエールピクベ

ルヂェツクドサボワの銅僧あり馬に跨り劍を持つ此人ザボワ一家に於て勳功ある人なり夫れより巡行すれば有名なる故宰相カプールの石僧石段の上に立つ傍らに婦人あり該氏に冠を捧げる處なり蓋し該氏は伊國統一の大功臣たるか故に伊太利全國より此冠を捧げ以て氏を尊寵するの意を表せり但し此婦人は伊太利全國に擬したるものと云ふ石尖塔あり高さ凡そ十二三間司法卿シカールジと云へる人宗教政治を廢して王政になせし其功績を表する爲め此塔を建つビヘトロミカーと云へる人の銅僧あり此人一千七六十年代佛兵當府に侵入せんとする時自ら決進して地雷火に火を傳へ以て敵兵を防ぎ佛兵をして遂に城内に侵入することを得さらしむ而して身も亦忽ち茲に焚死せり右の手に火繩を提げ左の手にペター器傳ル火を持ち勇進する處の僧にして忠勇稀世の壯士なり又一の廣達にはヂェツクフェルジナンド、ゼノワと云へる人の銅

僧ありノハの戦に此人士官となり馬上に諸軍を指揮する處にして馬は胸部に砲丸を受け將に斃れんとすゼノワ氏右足を地上に踏みなから鞭を擧て號令す勇威凜烈として生けるか如し又一の廣達に峻岩巨石を堆積し周廻の岩上に巨大の石僧四箇あり前年伊佛の兩國相謀りアルプ山中兩國の境界を掘鑿し通路を開築するの議を起し隧道開鑿の擧に際し實地に心力を盡したる有功の人々の石僧にして多くは不幸にして此事業の爲めに死亡せし人なりと此大事業全く整頓して爾來無限の大便益を世に與へしか故に茲に此擧をなし永世記念の爲にせり亦此地の壯觀と云可し○大學校あり巨大の屋宇三棟並立せり屋宇皆峻嶮にして甚だ常に異なり瑞士風の築造なるよし大雪を凌ぐに便なりと云ふ市街に續て公園あり土地高燥にして空氣洞通しポー河園下を環流し向岸には山下に街路を通し小汽車恒に往復し風致に富み眺望に宜し或は馬車に駕

し又は散歩して此地に來遊するもの多し園内遊嬉場を設け庭は土を塗固し車轂其他の戲器を備ふ庭の片面に假屋を連設し酒及び茶菓を賣る○早附木製造所あり一覽を乞ひしか社長不在により見るを果さず織物製造所に至る此處は主として絹を紡織す男女職工多く製品美麗にして價も亦廉なるか如し國內の販賣は素より主として英佛其他に輸出すと云ふ機は吾か邦の高機に彷彿として器械甚た密なり社主誘引して懇に歴觀せしむ此絹は皆國內産出のものを用ひ當時敢て他の産を仰かすと云へり以て伊國養蠶の盛大なるを知るへし○本土の養蠶に適當なるは皆人の知る如く都林米蘭の邊を以て最も盛んなりとす今を去る八九年前の頃は當地の蠶種は甚た精良ならずして蠶業惣て幼稚なりしか故に吾か邦船載の蠶種大に聲價を得賣買上年々巨大の利益を占め吾か國益甚た大なりしに近年に至りては土人非常に蠶業に勉勵し蠶種の改良に

注意し其進歩實に著しく吾か邦蠶種の勢力次第に減少し今は却て此地産出の下位に出つ殆んど挽回す可らざるの勢を來せりと目今在留の高島組商會大橋某なるもの慨歎して予に語り吾か邦第一の産物にして如此聲價を落し輸出次第に減少を來たすは最も慨歎の至に堪へざるなり○此地の産物は米南蠻黍絹酒菓物等にして就中米酒絹は最も名産なり

二十五日 (晴日曜)

午後三時四十分旅寓を發し米蘭に向て發車す野外に出れば恰も好し天氣清朗遠山春霞を帶ふ頃日の暖和に拘らすアルプの連峯白雪銀の如く景致頗る佳絶なり數ヶ處の停車場を通過し五時四十八分日西山に没す六時二十分ノバラを過く多少の人家小市街をなす巨刹あり傑閣空に聳ゆ停車場も亦稍や大なり七時二十分米蘭に着す領事チャレスカンピア

ギロカテリー其他蠶種商會鈴木某田島某予を迎ふ直ちに車に駕して客舎チネンターと號すに到る晚餐畢て十時領事の案内にて芝居に行く演題は當時羅馬に興行せるアポロ演劇の如しと雖も舞臺の裝飾俳優の衣裝及ひ技藝仕組に至る迄羅馬アポロに比すれば尙ほ上等に居れり觀畢て十二時半旅寓に歸る

二十六日 (晴月曜)

朝夕領事と共に市中巡覽午餐に領事夫婦を饗す蠶種商會鈴木某等接伴せしむ

○米蘭は朗羅地州の首府なり該州はアルプ山とポー河との中間にあり州内八ヶ所の都市あり米蘭は中央にして最大なる市府なり此州往古は土地廣大なりしか往々諸州の蠶食する所となり漸く狭少に歸す凡そ千年前に當りては毛織最も盛大なりしか後年蠶糸の日を逐ふて盛業に赴

くに従ひ毛織の業は漸くに衰へたり然れとも蠶糸の産出盛んなるに依り州内年を逐ふて富庶に赴けり此邊は忽て桑樹よく生長繁茂し頗る多額の桑葉を産す昔埃地利の屬地たりし時は桑樹の税を以て該國陸軍平日の費に充つるに足りしと云ふ以て産出の巨額なるを知るへし此府の周圍は七英里市府外郭の人口を併せて凡そ二十六萬二千人餘伊國中に於て第一等の繁榮を占め商業製作共に盛にして人民富庶なり産物は絹及ひ羅紗を最とす此地一千百六十二年代に日耳曼と戦ひ該國の爲めに市街兵燹に罹り僅に二三の寺院を残すのみ一千百六十七年に至り再造して漸時美麗に移り一千三百十二年より一千四百四十七年代迄ビスコンチー家此地を領し其後一千四百四十七年より一千五百三十五年迄スフォルザ家之れを領す此時代に當り民業隆盛にして繁榮を極め就中畫學大に進歩して名聲諸國に冠たり其後ロンバルジー及ひ米蘭を併せ

て西班牙に領取せられ一千七百十四年埃地利に屬し一千七百九十六年共和の都府となり爾來數多の沿革を経て一千八百四十八年代に内亂起り埃國の兵此地を退去す此時に當り伊國統一政治の議起り一千八百五十九年に至り遂に伊國に統一したり爾來市中の狀況一變し民智益開明に赴き當府の名聲伊國諸都府の上に出たり此地は素と彫刻術に富み有名なる石僧多くは此地より出ると云ふビクトールエマニエール街は則ちガルリー街にして此街の築造は歐洲にて珍重奇麗なる構造なり此造營に支用せし金額は凡そ八百萬法を費せりと云ふ街の長間凡そ九百六十尺幅員四十八尺地上より上宇に至る迄高さ九十四尺とす街は十字の形をなす中央の上部を八角となし又其上部を圓形となし高さ凡そ百八十尺繪畫彩色最も奇巧を盡す此八角の屋壁には歐羅巴亞細亞亞非利加の大洲に擬するに各其國土婦人の圖を以てし恰も羅馬聖彼得寺の堂

字を仰き見るか如く結構宏麗を極めたり此街の店頭は全面硝子を張り相競ふて精巧の美品を陳列す夜は二千有餘の瓦斯管に火を點し明晝の如く又圓形上宇の周圍に數多の瓦斯管を密列し時辰機を以て一分半時間に悉く點火せり又街の左右屋壁に伊國名士の石僧を配列し以て裝置をなす街路は麗朗なる大理石を發して室内を歩するか如く塵埃の衣服を侵すなく泥沙の踏裏を汚すなし其他ビヤッツァデルドーム及ヒコルソビクトールエマニエール街等皆之れに亞て繁榮し衆庶輻湊往來織るか如し伊國の諺に米蘭を稱して小巴里パリスと云ふ甚た過當に非らざるへし○有名なるドモ寺はビヤッツァデルドーム街にあり尤も稀世の構造なり此寺の建築は一千三百八十六年ビスコンチーと云へる人の創始に係り土民稱して世界八珍の一に居ると云ふ屋壁塔柱悉く大理石を以て成り其結構羅馬聖彼得寺及ヒ西班牙セビルノ寺に亞く歐洲に於て最も

巨大の寺院なり縦凡そ五百尺横凡そ百八十尺、ドム圓形の天の高さ凡そ二百二十尺、ドム上の尖塔高さ地面より凡そ三百六十尺と云ふ又九十八箇の尖塔屋上に林立し尖頭悉く神僧を彫刻す之れを仰望すれば萬櫓に白粉を粧ふたるか如し外壁の四面及び屋上にある大理石の彫削無慮二千此寺の築造は創業以來幾多の障碍ありて數百年を経るも落成に至らず目今尙ほ然り故に建築法はビスコンチー氏の發意の如くならざりしと云ふ然れとも大體の造作は一千五百年代の頃に至りて粗ほ落成を告ぐドム上にある尖塔は拿破侖一世此地に侵入の時職工に命して増築せるものと云ふ寺の形は十字を以て成り堂内の石柱三十二本周圍凡そ十二尺燧石皆大理石にして摸細工をなす堂内より屋上に登る石階の數百九十四段屋上より又尖塔の上樓に至ること三百階石階甚だ急峻なり屋上に至れば米蘭の市街眼下にありて人烟稠密嘩然として繁庶の氣象を現

はせり眼を轉して遙にアルプ山を望めは峻嶽雪を帯ひて雲間に聳へ恰も銀堤を築きて中原を畫したるか如し西南にモンビサー山を望み北にモンセニー山を瞻る兩山の中間にスベルカ及びモンブラン、サンベルナル、マッテルホン等の諸山峻嶺疊々雲間に連る就中秀峻にして目に觸るゝはマッテルホン山なり此日天氣晴朗にして眺望佳絶なり○古物美術書籍館等あり時限あるを以て一見を果さす○公園地は新舊二ヶ所あり舊園は苑中に池水あり幅員曠闊にして且清潔なり新園には動物館あり門外にオペール宰相の銅像を設置す洒掃能く至る府の西北に練兵場あり長さ凡そ二千三百五十尺幅員二千二百四十尺其傍らに古城あり往古ウビスコンチー及びスフォルザ王の居城なり今は陸軍兵の屯營となれり城の西南隅にある櫓及び瓦壁は則ち往古の遺物にして其他は悉く後世に改造せるものなり古城の左面にある競馬所は拿破侖一世の創造

する所にして観客凡そ三萬人を容るへし練兵場を隔て古城と相對し白石を以て建築したる樓門あり巍々然として廣遠の中央に屹立す號してアルクドラツペーと云ふ蓋し平和の字義なり一千八百四十年拿破侖一世昔時羅馬の建築風を用ひて大理石を以て之れを築く一千八百三十三年に至り煥帝フランス更に工事を起し業を繼ぎて全く落成に歸す石門の樓上に平和の天神六馬の戰車に駕したる銅像を設置し其景狀極めて壯烈六馬躍て空中に飛駕するか如く最も壯觀たり石門の前面に題字を刻し其左右にポー及びチ、ノ河の水神を刻し其他古今歴史上の圖を彫す皆精巧を極む諸所歴觀し黄昏に及び旅寓に歸る六時更に旅寓を出て他の食店に至り晚餐を喫す食後市中を散歩し九時半歸寓す領事及び蠶種商會社員等來訪す本夜當地を發して威尼斯に赴んとす十一時旅亭を出發し停車場に至る領事及び右社員等送別す同二十五分發車す停車場

の構造豪壯にして場内電氣燈を點し明耀白晝の如し

二十七日 (曇火曜)

午前五時二十分威尼斯に達す直ちに小船に乘し客舎グランホテルと號すに至る夜既に明けたり茶を喫して後ち暫く休憩す十一時領事ギリョームベルシエー及び長沼某來訪グランホテルは當府第一等の旅亭にして先年岩倉大使も此亭に宿せられ且つ昨年予國書捧呈の爲め當府に來りし時も亦此亭に寓す今回も領事より予か爲めに旅寓を此家に命す故に懇懃に火爐を煖て予を待つ午餐に領事及び長沼等を招く午後市中巡觀領事及び長沼等誘引す

○威尼斯はウベネシー州の首府なりウベネシー州を九邑に分つ威尼斯は其一なり該州はマンチョー、ビョウペーの兩河に挾まりポー河北境に繞り東南アドリヤチック海に臨む往古の事は史の徵すべきなけれとも

昔ポーリュシユスアナフユスチユスと云へる統領あり紀元七百十六年に死す之れを最初の統領なりと云傳へり紀元八百九年の頃は人民多くは海邊の群島に住居す群島の内リポアルトと云へる島嶼に政府を置く則ち當今威尼斯の市街なりと云ふ當府は北緯四十五度十五分東經十度に位し人口凡そ十二萬八千人餘一千二百四年に大統領アンリヨグンドロなるものコンスタンチノボルを略取し當州の勢ひ漸く盛大に赴き爾來益威力を以てアドリヤチック海の諸島嶼及び近傍の地を攻略し大に境域を廣む而して當時有功の人々自ら各地を領し自ら貴族と稱し一千二百九十七年に至り各永世貴族たるの基礎をなし政權は悉く此貴族の收得する所となり敢て他に干渉せしめず貴族院を置き同族中二十歳以上のものを以て該院の職に充つ而して此中より六人の執政職を置き大統領及び此職員専ら行政を司とる別に元老院を置き以て事を議す

其後幾多の沿革を経て一千三百十年に至り反逆を謀るものあり爾來十人の參議職を置き首府の政治并に外交の事を司らしむ一千三百八十年爾後名將交々起り外國と戦ひ大に境土を廣む下つて一千四百年の頃に至り國倍富兵彌強く國威四方に轟けり此時に當り百貨輻湊年々輸出に因りて得る處の利益千萬シユカート凡そ吾が豎圓に及ふ大洋を航する巨艦三百艘附屬の水夫八千人小形の商船三千艘附屬の水夫一萬七千人櫓引の軍艦四十五艘水兵一萬千人此大小の軍艦商舶を以て地中海航通貿易百般の全權を有し人口二十萬人國威旺盛にして頗る他の尊敬を受けたり然るに一千四百五十年の頃に至り土耳其國より侵入せられコンスタンチノボルを失ひ稍や國威を損す加之一千五百年の頃に至り葡萄牙人印度洋に通ずる航路奇望を新たに發見せしより地中海の商權大に變更し此府の生理頓に衰頽に赴き國力次第に衰微せり然れとも美術の

進歩は益著名なるか故に國の名譽は敢て失墜せざりしと云ふ一千七百九十三年佛國革命の後拿破侖一世の攻取する處となり大統領ロッドマニール拿破侖一世の爲に亡され當州の獨立此に至て滅亡す則ち一千七百九十七年なり其後埃國に附屬し一千八百六十六年に至り伊太利一統の治に歸せり英人歐洲の交易を便利にする爲め紅海印度洋の郵便埠頭を佛國馬耳塞港マルセイユより此地に移し伊埃兩國間に鐵道を架せしより東西交通に於て最も注目すべき場處なるか故に明治五年此地に日本領事館を置れたれとも其後羅馬に公使館を置かれしにより領事館を廢し別に領事を委囑せり○此府は小島を連続して一府となしたるにより島中に大運河を回らす河の長さ三十丁幅十尺より二百尺に至る形ち巴の字の如く之れを此地の本街とす是れより大小の運河を引き縦横交錯しゴンドラと唱る小艇を浮へ河を以て路に換へ艇を以て車馬に換へ雄樓傑閣櫓を

連ね河岸に沿ふ暑中は此地に來遊するもの多く舟遊殊に佳絶なりと云ふ此小艇の製作甚た奇なり舳首翬起して舳に屋根あり中に茵席を安んず之れに上るときは猶ほ箱馬車に坐するか如し艇は塗りて以て装置をなし船丁能く熟し棹を打て泛々として來往す大小橋梁の數三百七十八石橋最も多しピヤツアサンマルク廣街は三角形にして三方に美麗なる石造の樓閣櫓を連ね櫓宇の下に通路をなし百貨の市店を並列す店頭頗る奇麗なるは此地名産の硝子細工なり此廣街は衆庶集遊の場所にして暑中日没して後ち皆茲に輻湊し立錐の地なく深更に至る迄雜踏を極む正面にサンタマルク寺あり堂の正面はモザイクにて渾て美麗を盡し緻密の奇巧を極め最も奇觀を呈す寺内に大なる銅扉あり上に丈五尺の銅馬四あり古來稀有の門扉なり此銅馬は拿破侖一世の掠奪し去る所となりしか年を経て之れを復したり高塔あり三百二十二尺之れに登れば

仰てアルプ山を望み俯してはアドリヤチック海を臨む眺望佳絶なり此建築は三十八度に傾斜し最も珍奇の築造なり此塔の内昔共和政治のとき参議待合の席に使用せりと云ふ書籍館あり往古の書籍を集む此築造も亦奇巧を極む館内に大なる石柱二箇あり一の柱上に羽の生したる獅子を置く則ち當府の祭神なり又一の柱上には鱈魚あり此上にサンテマドールと云へる祭神を乗す則ち往昔共和の神なりと云ふ○有名なる宮殿あり往昔共和政府の政事堂なり紀元八百年代の創造に係る其後五度火災に罹り改築毎とに美麗を増加したり門に入りて石階を昇る數段にして廣庭あり即ち大統領即位の場所たり石階の前に銅脩二箇を建つ此堂の建築は其結構最も偉麗中間に廣庭を抱き庭上皆石を登す宮殿の内景は稀世の畫續其數枚舉に違あらず元來當府の美術は最初サンマルク寺の裝飾に力を盡し其後大統領の爲に此堂内に専ら力を用ひたり然れ

とも一千五百七十七年の火災により烏有となり爾來は畫巧昔日の妙處に及はざること遠しと云へり上段の一室には壁上に歴代大統領の畫脩を並列す金にて裝飾をなしたる段階あり往昔金にて作れる簿冊に署名したる貴族にあらされは此金段に昇るを得すと云ふ貴族院あり縦凡そ百六十尺横凡そ百三十尺高さ百四十尺金簿署名の貴族此處にて事を議す壁上に七十六人の大統領の畫脩あり又タントレットと云へる名工の畫きし極樂の圖あり世界第一等の巨大なる畫額にて數千人を此内に畫く其他歴史上の畫額數ふるに違あらず大統領の選舉席あり裝飾凡そ貴族院と同じ壁上に大統領の畫脩三十九あり此最終の脩は則ち終末大統領ロッドマニーの畫脩なり其他十参議の内閣議事堂及び往古の文書を貯藏せし場處往古の金銀銅類を蒐集せし處等皆畫續をなす宮殿の下層に牢獄あり傍らなる運河を跨り橋を以て廊となし相連接す此橋を名付け

て歎息橋と云ふ蓋し囚人此橋を越へて此牢獄に入るもの復生きて出るものなし故に此名あり獄中は暗黒にして四壁牢固燭を持って行く冷濕空気を押し陰々として心氣甚だ悪し茲に幽囚せらるゝ一兩日を過くれは刑を待たずして正に死に至らん慘酷殆んと極れり○アッセナル及軍造する所は往昔甚だ盛大にして一萬六千人の職工を使役す今尙ほ此場所を廢せず二千人餘を使用せりと云ふ此内に往昔の軍器及ひ大統領の着せし武具等種々の古物を貯藏せり○美術大學校は巨大の石屋にして樓閣河岸に聳ゆ校内には高名なる威尼斯の油繪數多貯藏す○サンタマリヤ寺はグラントホテルの對岸にあり往昔惡疫流行せしときロンチーナと云へる人記念の爲め建立せし寺院にして一千六百三十年の創始に係る此寺の廊壁に日本使臣の記念石を掲ぐ姓名及ひ年紀を石面に彫して廊壁に嵌す一千六百三十年と記せり其他各國使臣の記念石甚だ多し○

公苑は島中の北角にあり一千八百七年拿破侖一世僧侶の住居せし家屋を毀ち以て之れを作る綠蔭軟草あり前は碧海に對し渺茫として際涯なく遙にアルプの山巒を望み疊々として雲際に聳ゆ風景佳絶暑中は最も納涼に適し避暑の遊客來集の地なり巡覽既に黄昏に及ひ旅寓に歸る十時艇に乗して停車場に至る領事及ひ長沼某送別す是れより佛羅稜に至らんとす十一時發車す此間隧道數多ありと雖も深夜の車行記すへきなし

二十八日 (晴水曜)

午前七時十五分佛羅稜に達す直ちに客舎に至り喫茶暫く休憩して市街を一覽し他の旅亭ホテルトリヤサルコに過り午餐を喫す午後馬車に駕し公苑地を巡觀し薄暮旅寓に歸る

○佛羅稜はトスカン州の首府なり州内を別つて八邑とす此州は鑛山に

富めり紀元五百年前エトルスカンと云へる人此州に居住し希臘と戦ひ勝ち進んで那不兒を攻略し工藝文物を奨励し爲めに伊國の文明に大なる關係をなせり當時の古器物于今博物館に保存せり此人該州の北方に當り敵の侵入を防くか爲めに長城を築く其礎礎今尙ほ存せりと云ふ此州一千八百年代の頃までは交々諸大國の所屬となりしか一千八百六十年に至り伊太利統一の治下に歸す當府は北緯四十三度四十六分東經十一度十五分に位し人口凡そ十六萬九千人餘なり府の創始は紀元前百年代の頃羅馬の創設に係る一千五百年代に至り工商共に盛大に赴き歐洲第一等の繁榮を占めたり生産は毛織絹布の類を主とす其他兩替の業を専らとしフロランスと唱ふる金幣を造り歐洲全土に通用をなせり人民の氣象は理を究め力を致すの風ありて美術も他に勝りて名譽を得日用衣服に至る迄渾て他に異なる處ありと云ふ一千八百七十年迄は當王家

の首都なりしか羅馬遷都の後も敢て衰頹を來たすことなし此府は伊太利國四大都の一にして往昔より美麗の名を以て稱せられ而して最も風景に富めりアル河の清流ありて府の中腹を回流す水清く流れ疾く時に斜湍を作りて水勢を止む瀉々として聲あり河上には五橋を架し傑閣雄樓處々に起り古城古砦山上に兀立す大小の寺院惣て二百五十ヶ寺尖塔樹木雲霓の間に聳ゆ公苑二ヶ所あり一は岡陵に沿ひホ、リーと稱す廣坦の車道を作り回轉して苑の岡上に至れば市府一目の中にある丘陵森林市街を環り清流一帯遙に郭外に通す風致佳勝眺望甚だ好し夫れより小溪の樹下を経て小丘に至れば園丁の住屋あり構造又奇なり園中に石甍數多並列す一箇の小池あり水鳥靜遊し池中の小嶼に草花を栽へ海神を安置し噴水を設く苑中能く修り惣て清潔なり又一の公苑はカスキィネーと稱す縦凡そ一里横之れに準す河に沿ひ土地平坦にして樹木鬱蒼

深遠の氣象を帯ふ苑中には四達廣街を開き處々に榻を設け洒掃能く至り樹下に落葉なし此地に漫遊する人府内各處を歴觀して後ち必ず此苑に歩し以て氣力を伸暢す夏時は納涼に適當なるを以て逍遙するもの甚た多しと云ふ薄暮旅寓に歸る

三月一日 (晴木曜)

午前七時十五分旅寓を發し停車場に至る同五十五分發車途上麥田萬頃隴間には多く桑樹を栽し且つ羊豚を放牧す處々に丘陵起り小隧道數多あり十一時過トロントラに着車暫くして爰を發し左面に湖水を見る向岸の連山雲霞を帯ひ風景最も好し十一時四十五分キューシへ着車此處にて午食を辨す停車一時間にして發す午後三時四十五分羅馬に達す田中書記官等馬車を以て停車場に迎ふ直ちに駕して館に歸る

二日 (晴金曜)

午前十一時ブレジュール國公使の葬儀に會す

三日 (晴土曜)

四日 (晴日曜)

五日 (晴夕雨月曜)

六日 (晴夜雨火曜)

近頃歐字を學ぶ偶一詩を得たり

男子始終存至誠天涯爲客亦恩榮揮毫不耻吾書拙先哲有言足記名

七日 (晴夜雨水曜)

八日 (晴夜雨木曜)

九日 (晴夜雨金曜)

午後九時三十分貴族某氏の夜會に行く

十日 (曇夕雨土曜)

十一日 (雨雪日曜)

十二日 (晴月曜)

午後四時より國會傍聽に行く抑も頃日各省定額金の會議に際し外務海軍兩省の定額に就て異議を生し議論頗る紛然たり本日は外務卿マンチニ一氏宰相デブレチス氏の説を贊助して辯論甚た勉めたり

十三日 (晴火曜)

午後四時駕してパノラマを一見す此れは當今の開業にして家屋内部の構造未だ全く落成せず此圖は一千八百六十一年伊太利國佛軍の援けを得て埃地利と戦ひ大勝を得るの景なり最上の出來にあらず

十四日 (晴水曜)

本日は當國王陛下の天長節に付き外務省に於て宴會あり午後八時大禮服にて之れに會し十一時歸館す

十五日 (雨木曜)

午後七時三十分西班牙公使の案内を受け同館に至る晚餐の饗應あり十一時三十分歸館す

十六日 (晴夕雨金曜)

午後十時三十分外務卿マンチニ一氏の宅に行く接客の日なるを以てなり

十七日 (晴又雨土曜)

午後八時亞米利加公使の案内を受け同館に行く晚餐の饗あり十一時強歸館す

十八日 (晴日曜)

十九日 (晴夕雨月曜)

二十日 (晴又曇火曜)

二十一日 (晴水曜)

本日接客日に付多少來客あり

二十二日 (曇木曜)

二十三日 (曇夜雷霞金曜)

二十四日 (晴土曜)

午後二時日耳曼大使館に行く該館は丘陵に依りカピトールの近傍にありて頗る眺望に富めり故に該大使殊に予及び妻を招き樓上より景色を見せしめるなり該大使予に約するに本日眺望する所の寫眞を與へんことを以てす謝して歸る

二十五日 (晴日曜)

二十六日 (曇月曜)

二十七日 (曇雨火曜)

午後十時佛蘭西大使の案内あり大禮服にて同館に行く但し新任披露の爲めなり十一時四十分歸館す

二十八日 (雨又晴水曜)

此夜十時本館に於て夜會を開き貴紳及び知友を招く滿堂悉く芳花を以て装ひ廊上に吾か國の球燈を掲げ以て來賓を待つ此夜會するもの男女無慮三百有餘人十一時三十分踏舞を始む綺羅翻々金玉燦爛たり十二時立食を開く客皆歡を盡し踏舞曉に至る

二十九日 (晴木曜)

三十日 (晴金曜)

三十一日 (晴土曜)

四月一日 (晴夜雨日曜)

二日 (晴月曜)

三日 (晴火曜)
 四日 (晴水曜)
 午後待客日に付多少來客あり
 五日 (晴木曜)
 午後十時三十分佛蘭西大使の招に應し同館に行く
 六日 (晴金曜)
 午後十時例により外務卿マンチニー氏を訪問す
 七日 (雨土曜)
 八日 (雨日曜)
 九日 (雨月曜)
 十日 (雨夕晴火曜)
 夜曲馬見物に行く

十一日 (晴又曇水曜)
 午後待客日に付多少來客あり
 十二日 (晴木曜)
 午後七時三十分佛蘭西大使の招により同館に行く晚餐の饗あり十一時
 前歸館す
 十三日 (晴金曜)
 午後上院議事傍聽に行く議院の結構議場の體裁等下院に異なることなし
 ○午後十時三十分例によりて外務卿マンチニー氏を訪ふ
 十四日 (雨土曜)
 十五日 (晴又雨日曜)
 十六日 (晴又雨月曜)
 午後サンショワニー野外に於て競馬を見物す兩陛下及び太子文武百官

と共に臨場群衆堵をなす但し此競馬は或る會社の催にして例年之れを
舉行す

十七日 (晴火曜)

午前十時散歩格獸觀の古跡に至り殘壁の層上に昇る○格獸觀コリゼイア
ソフヒテアと云ふは羅馬古跡中の大名觀たり紀元六十九年より七十九年の間に於
て羅馬フラビユスベスパシヤニユス帝猶太國を征服し凱旋の後ち之れ
を創營し嗣帝チチユスのとき落成す周圍五百四十六メートル楕圓規に
築き屋壁の高さ五十二メートル皆煉瓦石を用ひ五層となし觀客八萬七
千人を容るへく層樓は皆中庭に面し窓を開き最上の層は露臺にして中
央に空庭を設け之れを闘獸の場所とす古時は此觀臺惣て莊麗を極めし
も紀元七百年代ノルマン人羅馬に侵入せしときギスカンなるもの之れ
を毀損し千三百年頃に至りては次第に土石を剝き取り大半崩頽せり今

其北部八分の一を存在す以て其全局を想像するに足るへし○昔チチユ
ス帝の時代には此場内に於て五千疋の野獸を闘殺し外國の俘虜一萬人
を殺戮せしことあり後ち又基督教徒を數多斬殺し人血滿場に迸りしこ
とありと云ふ當時羅馬人民武勇を尙ひ猛獸と格闘するを好む又猛獸を
中庭に放ち罪人と闘はしめ罪囚勝ては罪を赦免せらるゝものあり衆男
女臺上より之れを見物し以て最上の快樂となす時としては二千人も一
時に格闘することありき昔クラジヤトール奴の内にスバルタキユスと
云ふものあり此人は奴隸の頭にして頗る格闘を能くし歴史上にも名を
殘せしものにて壓制を堪へて獨立するものを名付けてスバルタキユス
と稱するに至れり此格獸のことは紀元五百年代迄は専ら行はれたりと
當時の風俗想見るへし西班牙に於ては今尙ほ闘獸の觀盛んに流行せり
と云ふ○午後三時畫師某の案内にて畫學校に行き油繪を展覽す

十八日 (晴水曜)

午後待客日に付多少來客あり○夜十時日耳曼人某より夜會の案内あり
同方へ行く

十九日 (晴木曜)

午後ビルラメリニーニ山莊に遊ふ氣候温和風景殊に好し田中書記官齋
藤市來兩書記生は乘馬にて行く歸路抵伯河岸チンを過く○抑も往古亞慕流アムス
なるものあり政權を專にし其兄の子羅慕路列慕流ロマスレムスの二人を此の河源に
投す後ち羅慕路は羅馬國の始祖となると云ふ詩二首を得たり

哀々慈母死幽阮兒泣江灣慘水聲愧汝他年成大志弟兄空抱闕牆情
呱呱籠底泣飢聲他歲叱驅天下兵龍躍捲來大江水滔々萬古傳雄名

二十日 (晴又雨金曜)

午後三時當地に設立する佛蘭西美術大學校よりの案内あり同校に至り

陳列品を觀る○佛蘭西美術大學校ビルラメリニにありは千五百四十年にリッピと
云ふ人の造營したる家屋にして其後二三の所有者變替し千八百〇一年
に至り佛王路易十四世此に美術大學校を開設したり爾來今に至る迄佛
國の大學校にして年々佛國より美術學卒業の生徒數名を送り以て實地
の業を修めしむ而して此生徒の造りし油繪圖畫フラートル土にて造る像等を
陳列し毎年一回朝野の貴紳及び各國交際官に披露して列品を閱覽せし
め尙は諸人に縱覽せしむるを例とす

二十一日 (晴又雨土曜)

午前市中を散歩しサントマリー寺に行く午後三時駕してビルラホルゲ
ーゼ園内の美術館に至る○サントマリー寺は廣大美麗なることサンボ
ール寺に亞くものなり本堂は大理石の柱を以て成り且つ美しき嵌細工
あり寺の前後に埃及塔を建て廣域を開く昔は毎歲八月十五日に於て法